

大熊町 住民意向調査 報告書

令和2年3月

復興庁
福島県
大熊町

大熊町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 調査結果のまとめ	5
2-1 現在の状況	7
2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））	7
2-1-2 世帯人数（問7・問10）	7
2-1-3 現在の居住自治体（問8）	8
2-1-4 現在の住居形態（問9）	8
2-2 将来の意向	9
2-2-1 大熊町への帰町意向（問11）	9
2-2-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること （問12）	10
2-2-3 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問13-2）	10
2-2-4 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問14-2）	11
2-2-5 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態 〔戻りたいと考えている方〕（問14-3）	12
2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態 〔まだ判断がつかない方〕（問14-3）	12
2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問15）	13
2-2-8 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住意向（問14-4）	14
2-2-9 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態（問14-5）	14
2-2-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に 居住しない理由（問14-6）	15
2-2-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住を判断できない理由（問14-7）	16

2-2-12	大熊町に戻らないと決めている理由（問 17-1）	17
2-2-13	大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（問 17-2）	18
2-2-14	大熊町に帰町しない場合に居住を希望する自治体（問 17-3）	19
2-2-15	大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（問 17-4）	19
2-2-16	大熊町との「つながり」を保ちたいか（問 16-1）	20
2-2-17	大熊町を訪れたい頻度（問 16-2）	20
2-3	大熊町内での就労意向	21
2-3-1	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（問 18）	21
2-4	不動産の取り扱い	22
2-4-1	大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向（問 20-1）	22
III	調査結果	23
3-1	回答者の属性	25
3-1-1	性別	25
3-1-2	年齢	25
3-1-3	現在の職業（就業形態）	26
3-1-4	現在の業種	27
3-2	東日本大震災発生時の状況	28
3-2-1	震災発生当時の住まい	28
3-2-2	震災発生当時の住まいの区域	28
3-2-3	震災発生当時の住まいの行政区	29
3-2-4	震災発生当時の住居形態	29
3-2-5	震災発生当時の世帯構成・人数	30
3-3	現在の状況	31
3-3-1	現在の居住自治体	31
3-3-2	現在の住居形態	31
3-3-3	現在の世帯構成・人数	32
3-4	将来の意向	33
3-4-1	大熊町への帰町意向	33
3-4-2	大熊町での今後の生活において必要だと感じていること	36
3-4-3	大熊町への帰町時期	37
3-4-4	大熊町へ帰町する場合の家族	38
3-4-5	大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数	39
3-4-6	大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設	39

3-4-7	大熊町へ帰町した場合に必要なサービス	40
3-4-8	大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態	41
3-4-9	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居留意向	42
3-4-10	特定復興再生拠点区域に希望する住居形態	43
3-4-11	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に 居住しない理由	43
3-4-12	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住を判断できない理由	44
3-4-13	大熊町への帰町を判断するために必要なこと	45
3-4-14	大熊町との「つながり」を保ちたいか	46
3-4-15	大熊町を訪れたい頻度	47
3-4-16	現時点で戻らないと決めている理由	48
3-4-17	帰町しない場合に今後の生活において必要な支援	49
3-4-18	帰町しない場合に居住を希望する自治体	49
3-4-19	帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	50
3-4-20	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向	51
3-4-21	大川原地区への通園・通学の意向	51
3-4-22	大川原地区で通園・通学をさせたい校種	52
3-4-23	大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向	52
3-4-24	不動産利活用事業への登録	53
3-4-25	不動産利活用事業に登録していない理由	53
3-5	復興公営住宅	54
3-5-1	福島県営の復興公営住宅への入居意向	54
3-5-2	福島県営の復興公営住宅の入居を希望する自治体	54
3-6	全世帯員の意向	55
3-6-1	性別	55
3-6-2	年齢	56
3-6-3	調査回答者との続柄	56
3-6-4	大熊町への帰町・転入の意向	57
3-6-5	今後の住まいの意向	58
3-6-6	大熊町に求める支援等	59
3-7	意見・要望	60
3-7-1	意見に係る記入内容の分類結果	61
3-7-2	生活について	62
3-7-3	震災発生前の居住地について	64

3-7-4	賠償について	66
3-7-5	帰還について	68
3-7-6	避難期間中及び将来の住宅について	70
3-7-7	除染について	72
3-7-8	復旧・復興について	74
3-7-9	原発の安全性について	76
3-7-10	原発事故に対する対応について	77
3-7-11	その他	79
IV	参考資料	81
4-1	使用調査票	83

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされていた大熊町民の「帰町後の生活環境の改善」、「帰町に向けた諸施策の適切な実施に向けた取り組み」を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	大熊町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 5,199世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	令和元年10月28日（月）～令和元年11月11日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、大熊町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 2,170世帯（有効回収率41.7%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・「その他」に内訳を記載している項目に関しては、個別の項目を合算して構成比を改めて算出している。従って、内訳の回答比率の合計が、グラフ記載の「その他」の回答比率と合致しない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

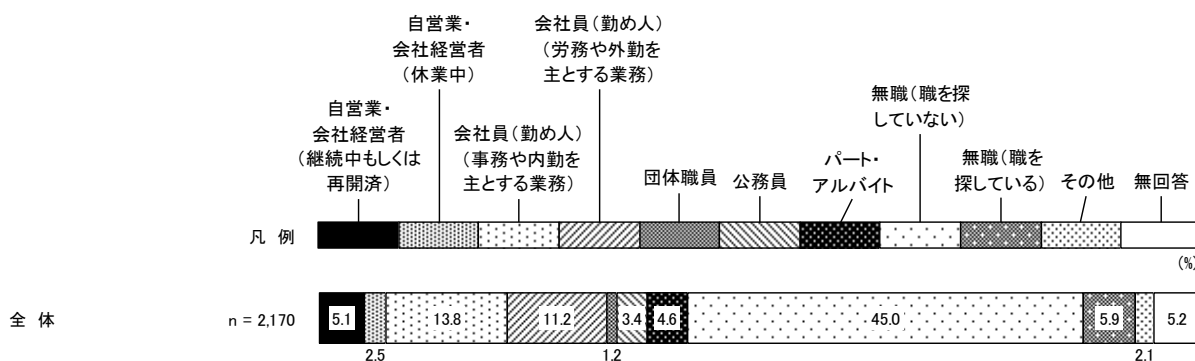
II 調査結果のまとめ

2-1 現在の状況

2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が13.8%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.2%となっている。

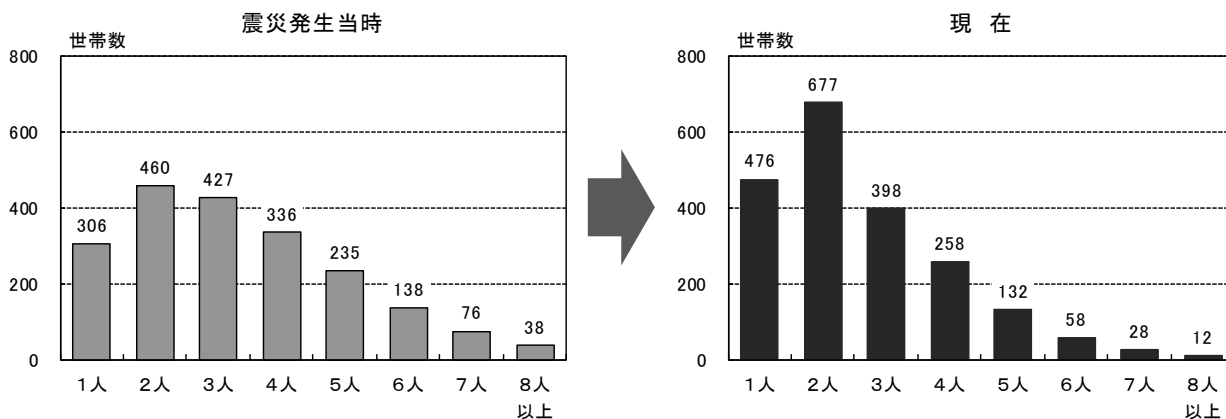
<図表2-1-1 現在の職業（就業形態）>



2-1-2 世帯人数（問7・問10）

世帯人数については、震災発生当時は、「2人」が460世帯と最も多く、「3人」が427世帯で2番目に多かったが、現在は、「2人」が677世帯と最も多く、「1人」が476世帯で2番目に多くなっている。

<図表2-1-2 世帯人数>

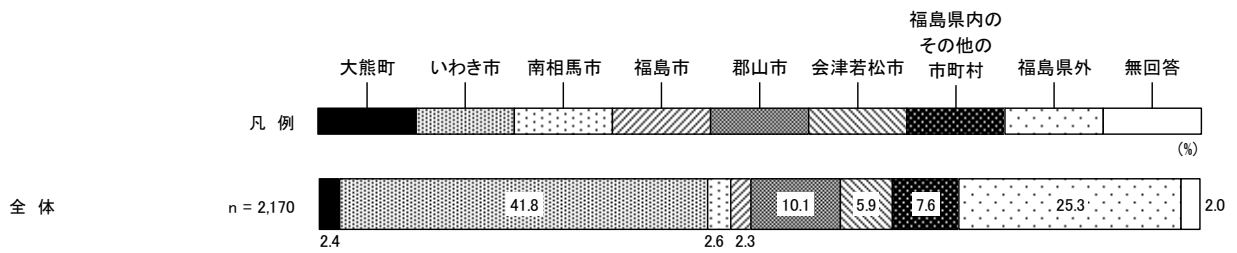


※問4で「大熊町に住んでいた」と回答した方のみ

2-1-3 現在の居住自治体（問8）

現在の居住自治体については、「いわき市」が41.8%と最も高く、次いで「福島県外」が25.3%、「郡山市」が10.1%となっている。

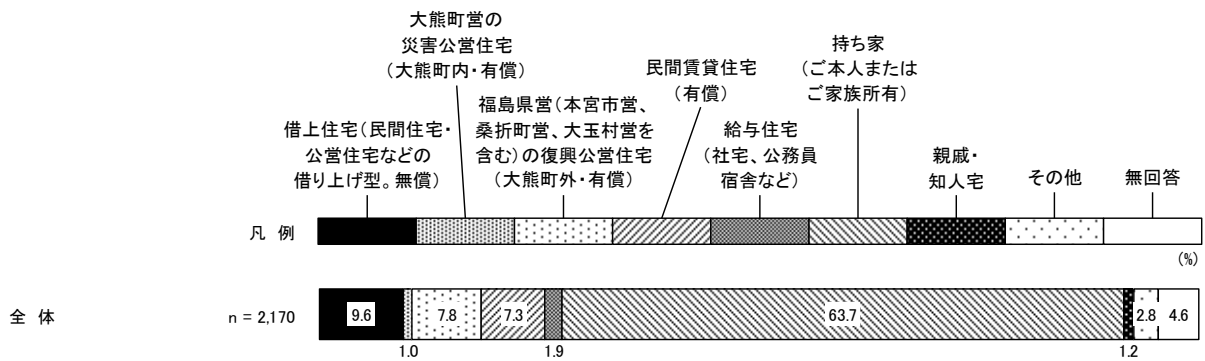
<図表2-1-3 現在の居住自治体>



2-1-4 現在の住居形態（問9）

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が63.7%と最も高く、次いで「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が9.6%、「大熊町営の災害公営住宅（大熊町内・有償）」が7.8%となっている。

<図表2-1-4 現在の住居形態>



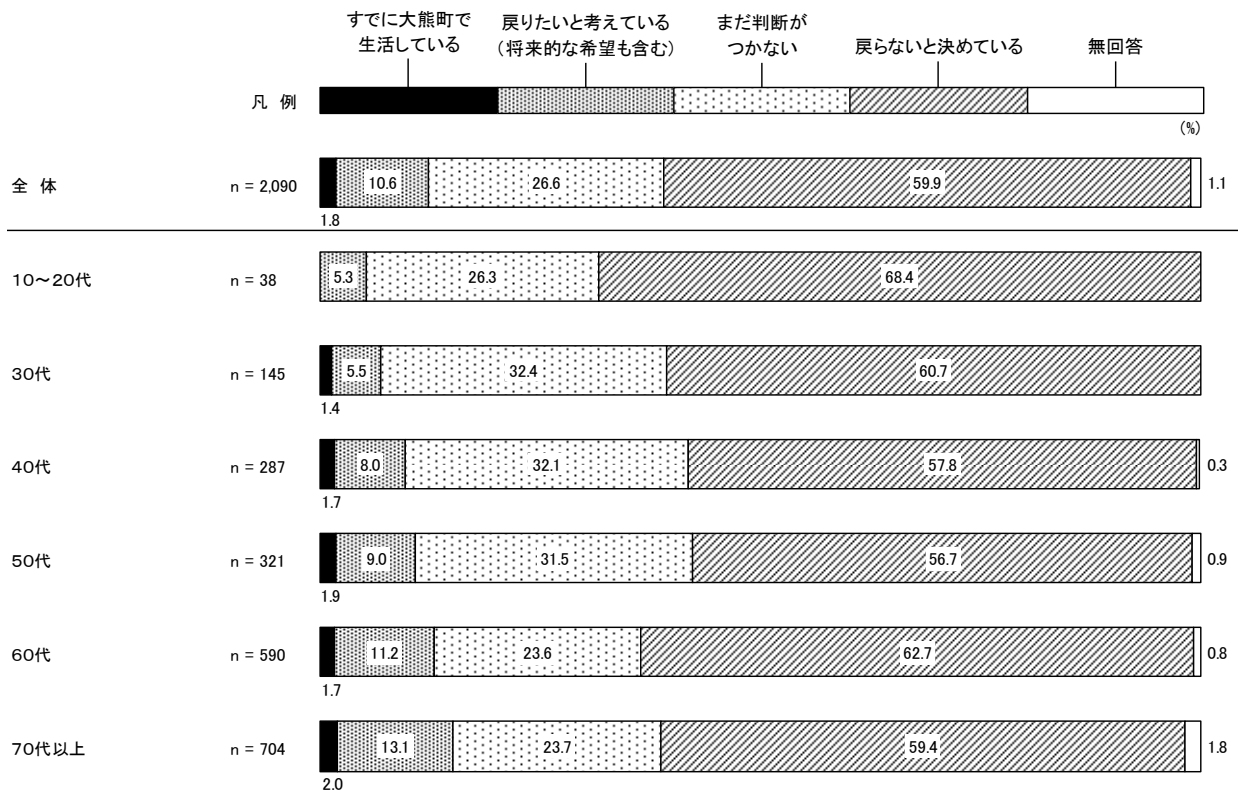
2-2 将来の意向

2-2-1 大熊町への帰町意向（問11）

大熊町への帰町意向については、「すでに大熊町で生活している」が1.8%、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が10.6%となっており、合わせた帰町意向のある方は12.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、高齢層ほど「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」の割合が高く、70代では13.1%となっている。

<図表2-2-1 大熊町への帰町意向（年齢別）>

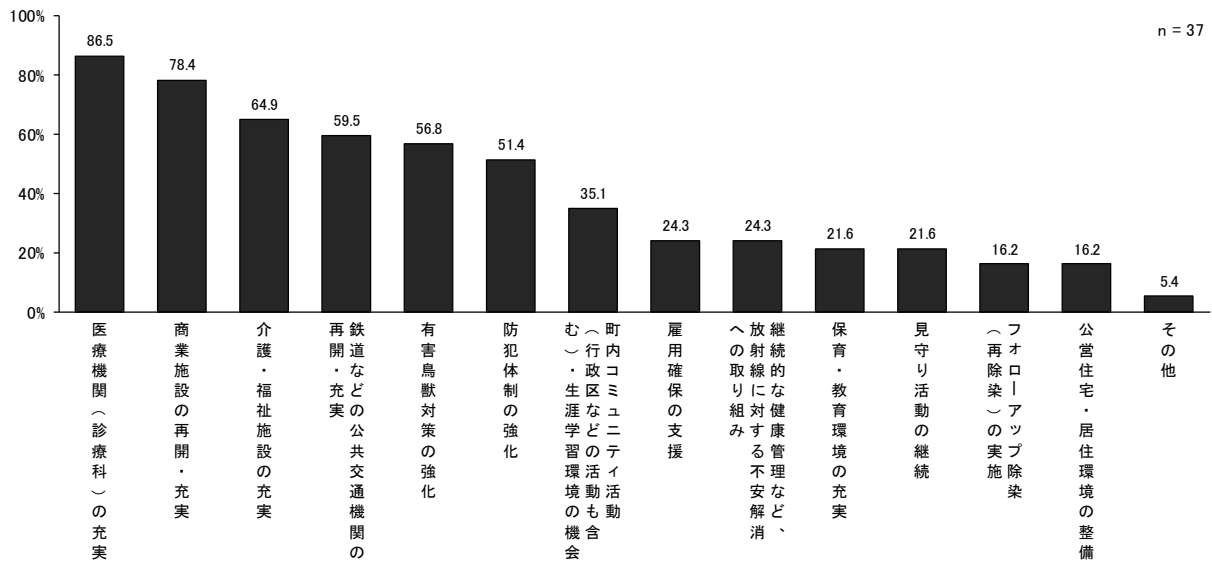


※問4で「大熊町に住んでいた」と回答した方のみ

2-2-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（問 12）

大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについては、「医療機関（診療科）の充実」が86.5%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が78.4%、「介護・福祉施設の充実」が64.9%となっている。

<図表 2-2-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること>

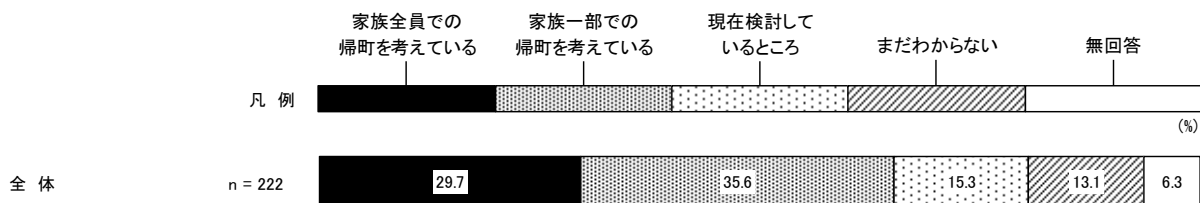


※問 11 で「すでに大熊町で生活している」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-3 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問 13-2）

大熊町へ帰町する場合の家族構成については、「家族一部での帰町を考えている」が35.6%と最も高く、次いで「家族全員での帰町を考えている」が29.7%となっている。

<図表 2-2-3 大熊町へ帰町する場合の家族構成>



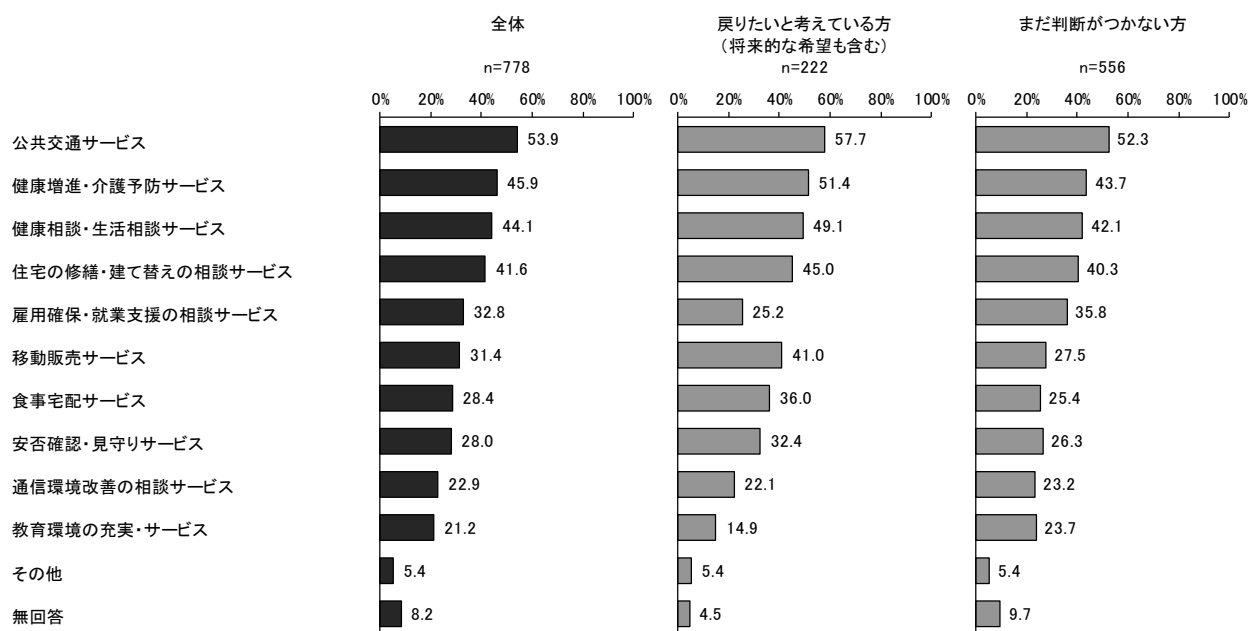
※問 11 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ

2-2-4 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問 14-2）

大熊町へ帰町した場合に必要なサービスについては、「公共交通サービス」が53.9%と最も高く、次いで「健康増進・介護予防サービス」が45.9%、「健康相談・生活相談サービス」が44.1%となっている。

帰町意向別にみると、戻りたいと考えている方（将来的な希望も含む）、まだ判断がつかない方のいずれも、全体と同じ項目が同じ順番で上位に並んでいる。

<図表2-2-4 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（帰町意向別）>

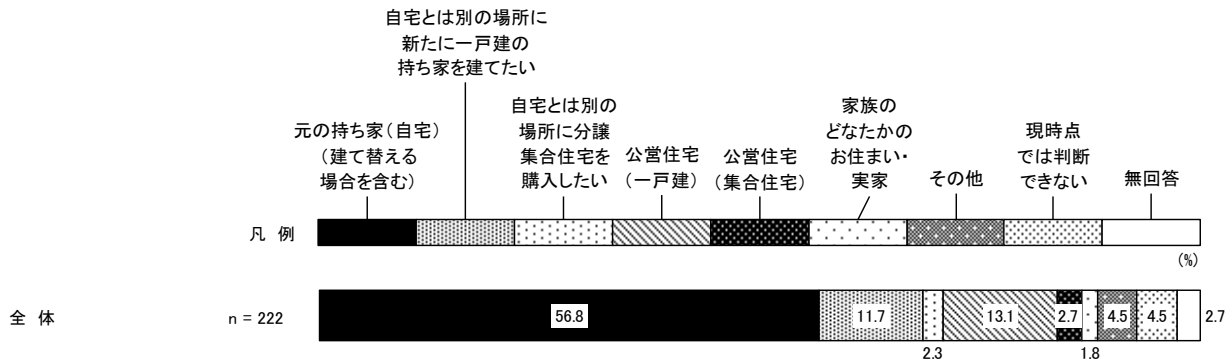


※問 11 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-5 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕
(問 14-3)

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が56.8%と最も高く、次いで「公営住宅（一戸建）」が13.1%、「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が11.7%となっている。

<図表2-2-5 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕>

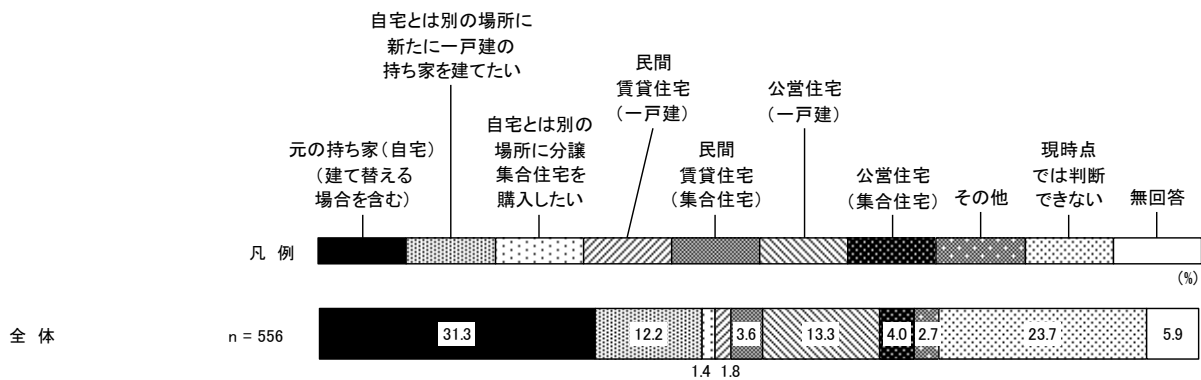


※問 11 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ

2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕
(問 14-3)

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が31.3%と最も高く、次いで「現時点では判断がつかない」が23.7%、「公営住宅（一戸建）」が13.3%となっている。

<図表2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕>

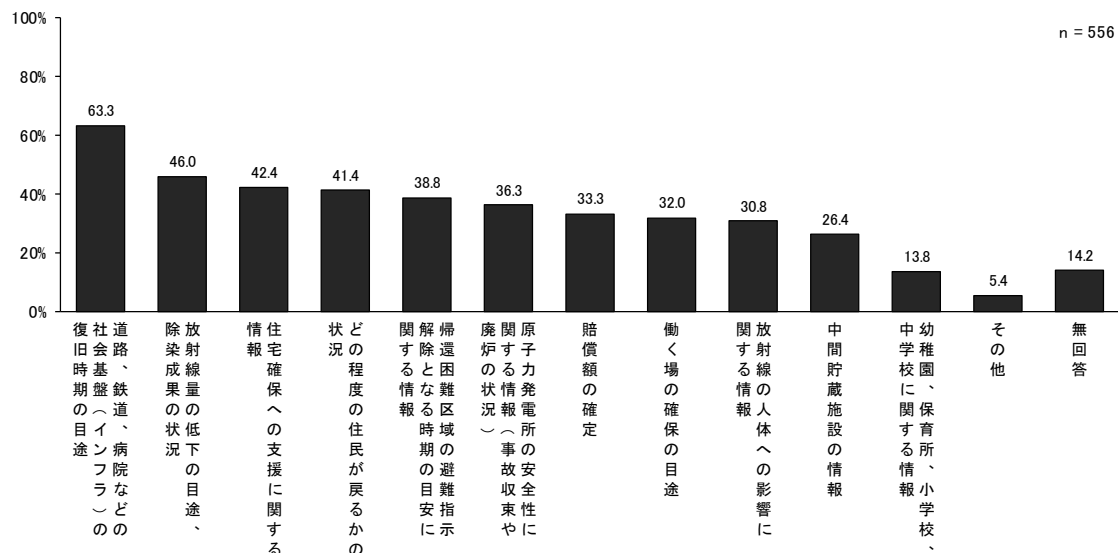


※問 11 で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ

2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問 15）

大熊町への帰町を判断するために必要なことについては、「道路、鉄道、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が63.3%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が46.0%、「住宅確保への支援に関する情報」が42.4%となっている。

<図表2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと>



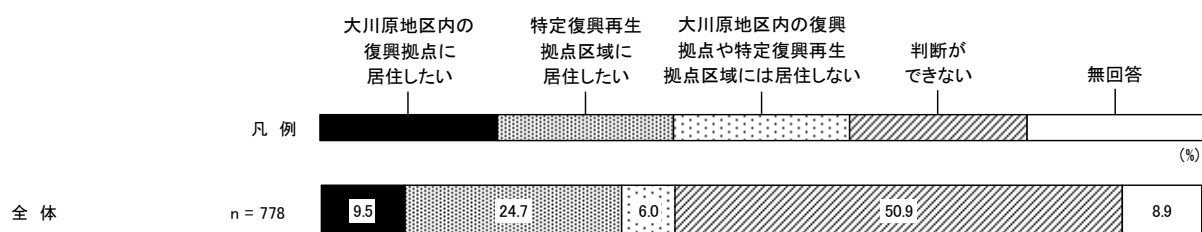
※問 11 で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-8 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（問 14-4）

町では平成 31 年 4 月に一部地域の避難指示が解除され、復興拠点として整備していた大川原地区に役場を開庁しました。また 6 月より災害公営住宅への入居が開始され、生活関連施設の整備も進めています。一方、平成 29 年 11 月に認定されました帰還困難区域内における「特定復興再生拠点区域復興再生計画」では、JR大野駅周辺や下野上地区を中心に「特定復興再生拠点区域」（約 860ha）と位置づけ、令和 4 年春頃までに除染を行い避難指示解除による居住開始を目指すことにしました。

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向については、「大川原地区内の復興拠点に居住したい」が 9.5%、「特定復興再生拠点区域に居住したい」が 24.7%となっている。「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」が 6.0%、「判断ができない」が 50.9%となっている。

<図表 2-2-8 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向>

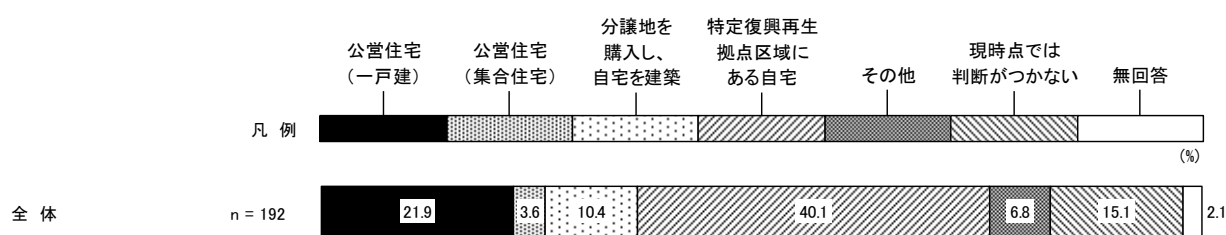


※問 11 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した方のみ

2-2-9 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態（問 14-5）

特定復興再生拠点内に希望する住居形態については、「特定復興再生拠点区域にある自宅」が 40.1%と最も高く、「公営住宅（一戸建）」が 21.9%、「現時点では判断がつかない」が 15.1%となっている。

<図表 2-2-9 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態>

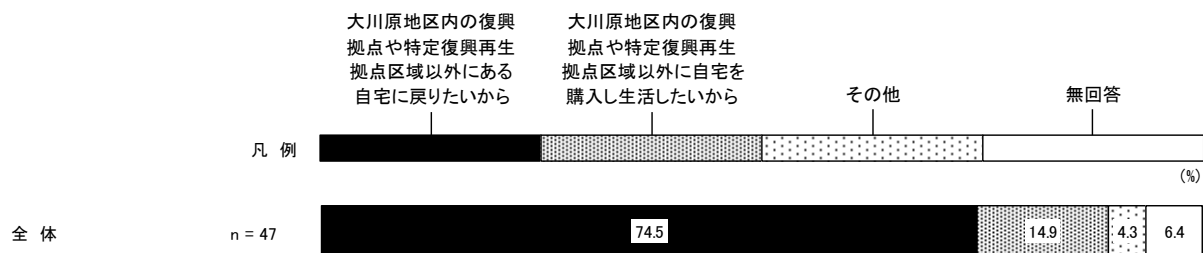


※問 14-4 で「特定復興再生拠点区域に居住したい」と回答した方のみ

2-2-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由
(問 14-6)

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由については、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから」が74.5%、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購入し生活したいから」が14.9%となっている。

<図表2-2-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由>

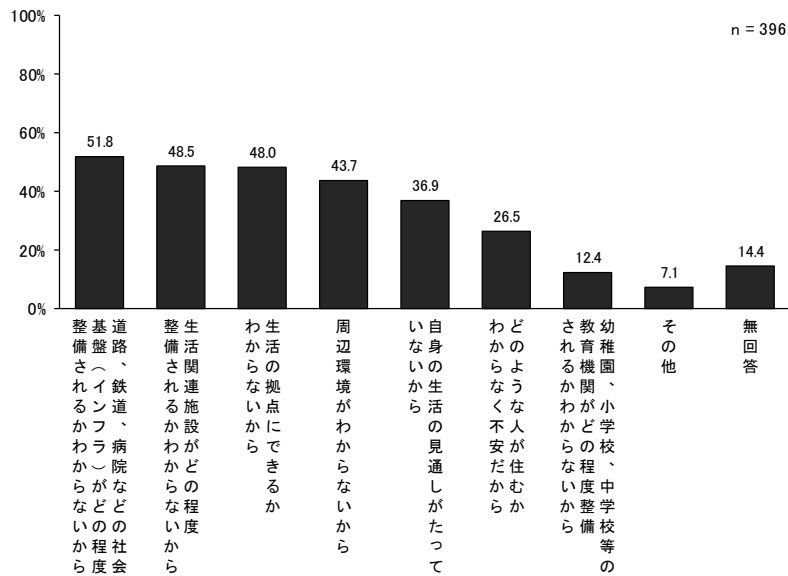


※問 14-4 で「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方のみ

2-2-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由（問 14-7）

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由については、「道路、鉄道、病院などの社会基盤（インフラ）がどの程度整備されるかわからないから」が51.8%と最も高く、次いで「生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから」が48.5%、「生活の拠点にできるかわからないから」が48.0%となっている。

<図表2-2-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由>

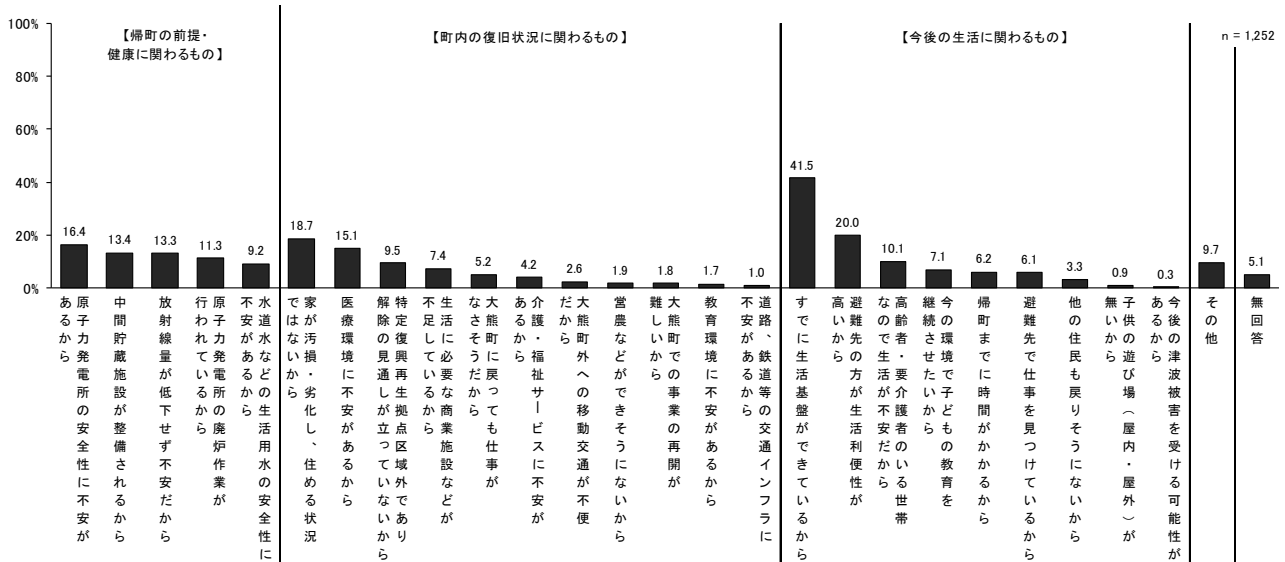


※問 14-4 で「判断ができない」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-12 大熊町に戻らないと決めている理由（問 17-1）

大熊町に戻らないと決めている理由については、「すでに生活基盤ができているから」が41.5%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が20.0%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が18.7%となっている。

<図表2-2-12 大熊町に戻らないと決めている理由>

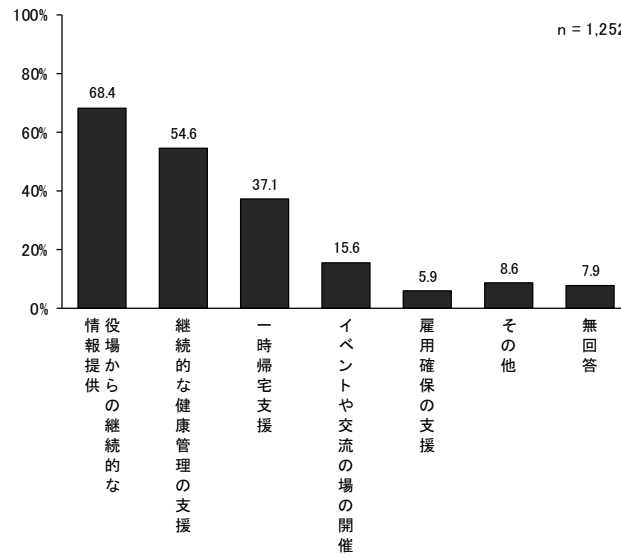


※問 11 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ
 ※回答は3つまで

2-2-13 大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（問 17-2）

大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援については、「役場からの継続的な情報提供」が68.4%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が54.6%、「一時帰宅支援」が37.1%となっている。

<図表2-2-13 大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援>

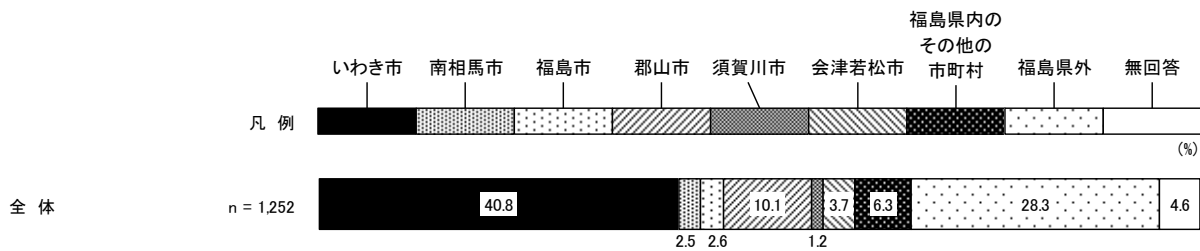


※問 11 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ
※複数回答可

2-2-14 大熊町に帰町しない場合に居住を希望する自治体（問 17-3）

大熊町に帰町しない場合に居住を希望する自治体については、「いわき市」が40.8%と最も高く、次いで「福島県外」が28.3%、「郡山市」が10.1%となっている。

<図表2-2-14 大熊町に帰町しない場合に居住を希望する自治体>

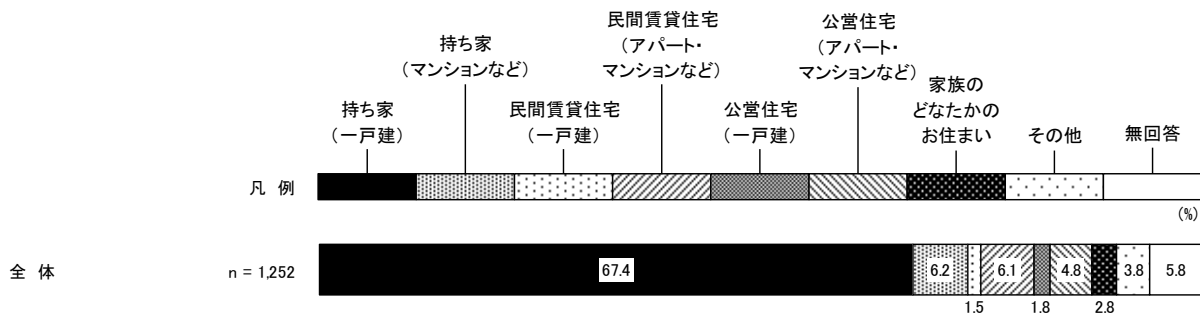


※問 11 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-2-15 大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（問 17-4）

大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が67.4%と最も高く、次いで「持ち家（マンションなど）」が6.2%、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が6.1%となっている。

<図表2-2-15 大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態>

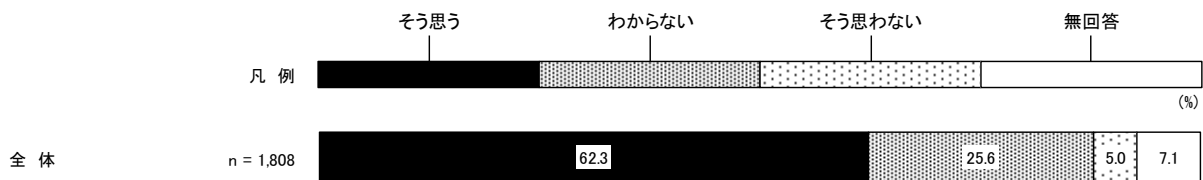


※問 11 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-2-16 大熊町との「つながり」を保ちたいか（問 16-1）

大熊町との「つながり」を保ちたいかについては、「そう思う」が62.3%、「わからない」が25.6%、「そう思わない」が5.0%となっている。

<図表2-2-16 大熊町との「つながり」を保ちたいか>

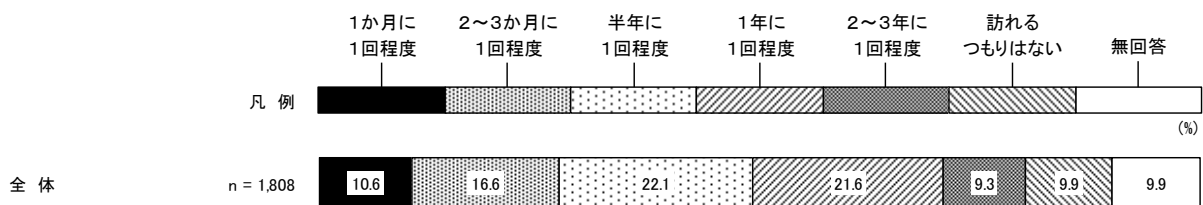


※問 11 で「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-2-17 大熊町を訪れたい頻度（問 16-2）

大熊町を訪れたい頻度については、「半年に1回程度」が22.1%と最も高く、次いで「1年に1回程度」が21.6%、「2~3か月に1回程度」が16.6%、「1か月に1回程度」が10.6%で、1年以上以上訪れたいとする回答は70.9%となっている。

<図表2-2-17 大熊町を訪れたい頻度>



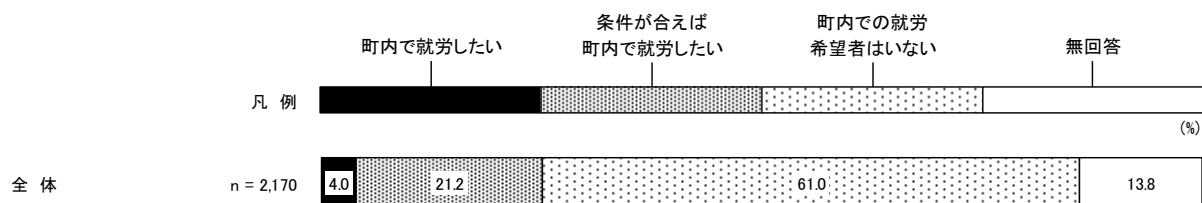
※問 11 で「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-3 大熊町内での就労意向

2-3-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（問 18）

大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向については、「町内で就労したい」が4.0%、「条件が合えば町内で就労したい」が21.2%、「町内での就労希望者はいない」が61.0%となっている。

<図表2-3-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向>

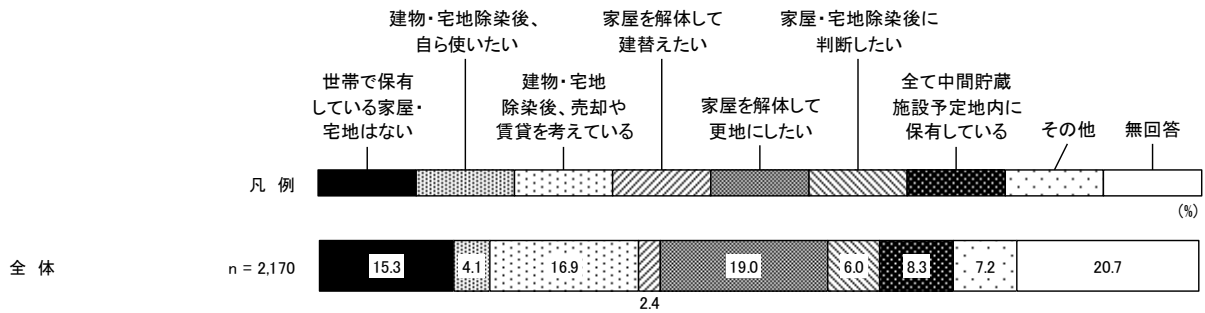


2-4 不動産の取り扱い

2-4-1 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向（問 20-1）

大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向については、「家屋を解体して更地にしたい」が19.0%と最も高く、次いで「建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」が16.9%、「世帯で保有している家屋・宅地はない」が15.3%となっている。

<図表2-4-1 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向>



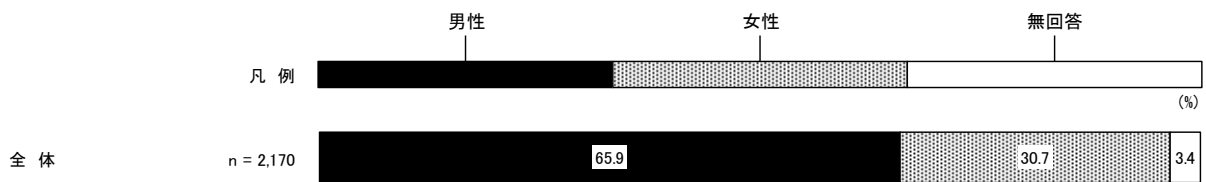
III 調査結果

3-1 回答者の属性

3-1-1 性別

問1 性別を教えてください。(〇は1つ)

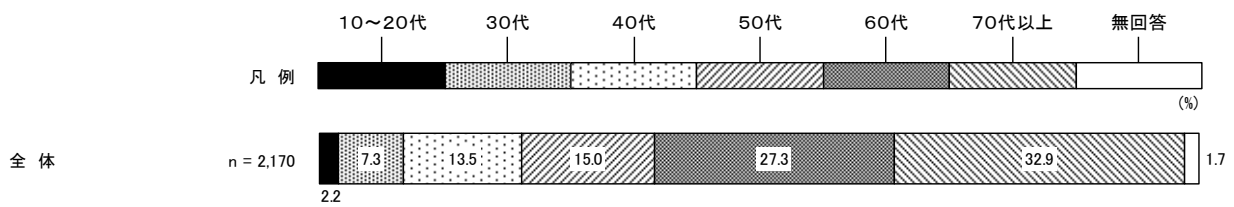
<図表3-1-1 性別>



3-1-2 年齢

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(〇は1つ)

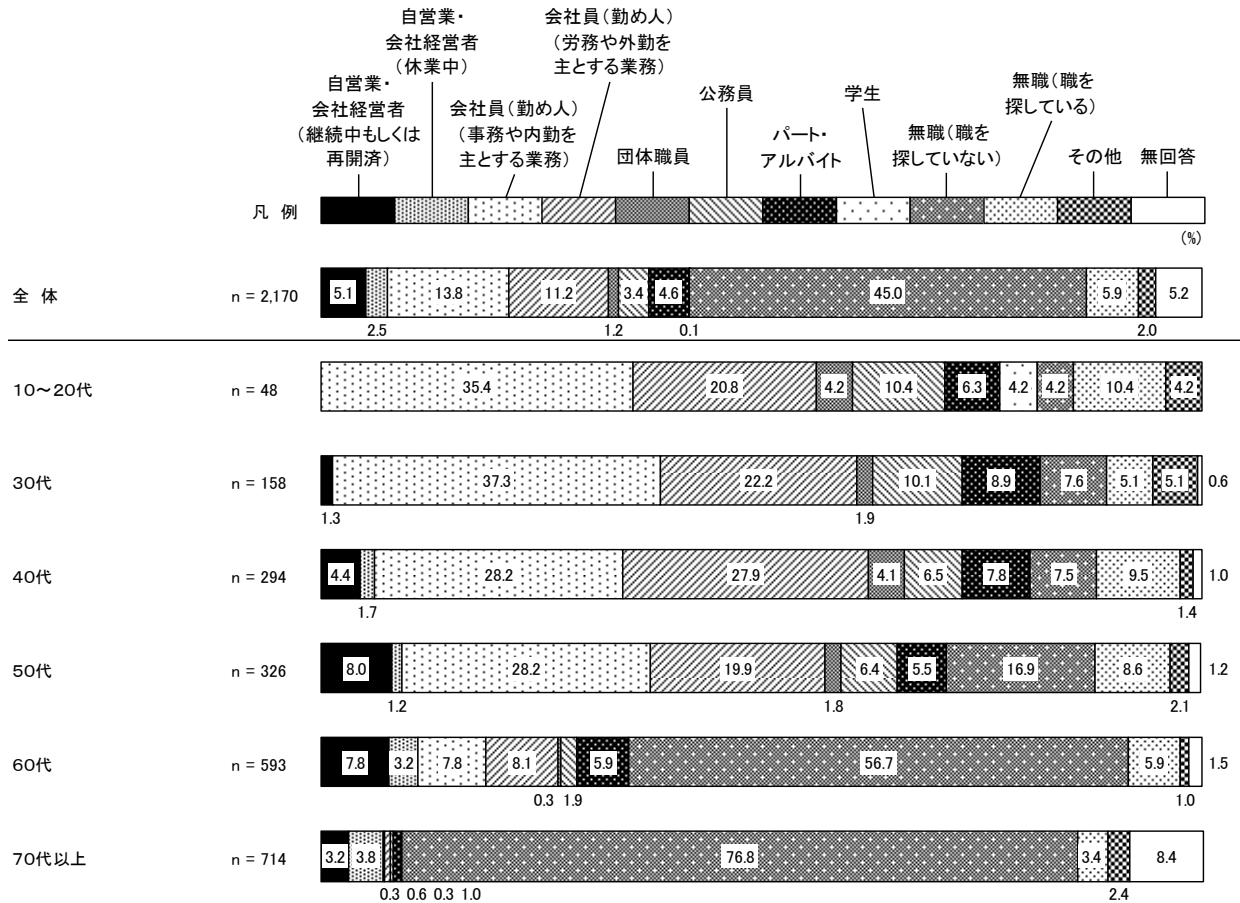
<図表3-1-2 年齢>



3-1-3 現在の職業（就業形態）

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）（○は1つ）

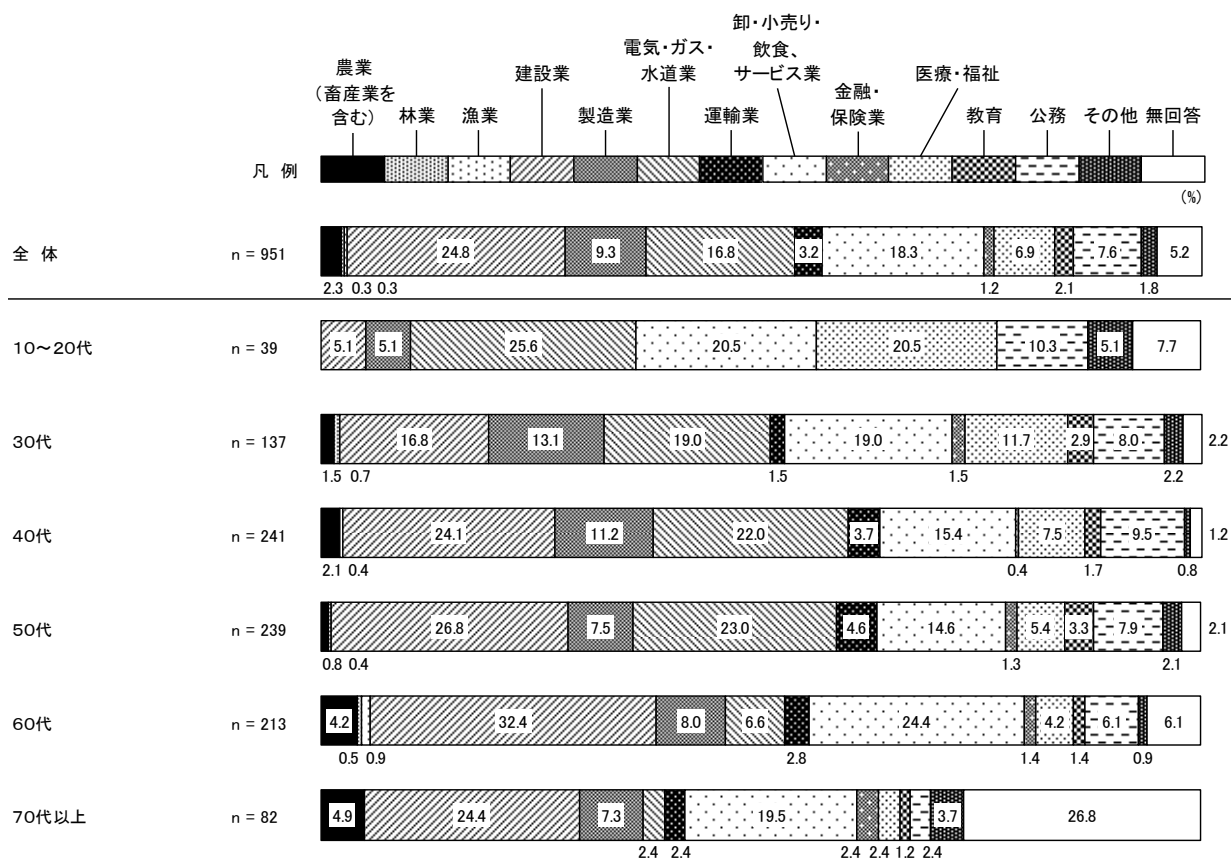
<図表3-1-3 現在の職業（就業形態）（年齢別）>



3-1-4 現在の業種

【仕事に就いている方（(1)で「1」から「7」までと、「11」と回答した方）にうかがいます。】
 問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (2) 業種（〇は1つ）

<図表3-1-4 現在の業種（年齢別）>

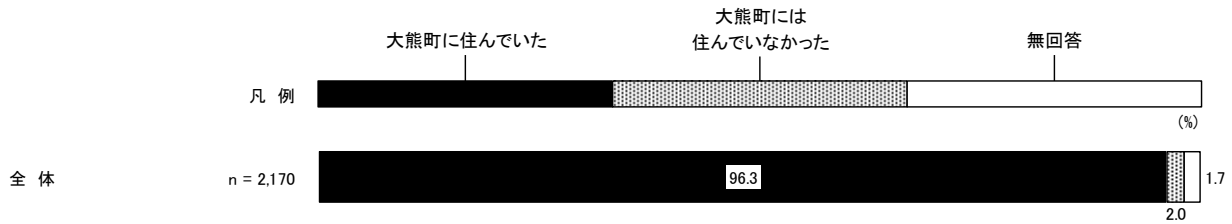


3-2 東日本大震災発生時の状況

3-2-1 震災発生当時の住まい

問4 震災発生当時、あなたは大熊町にお住まいでしたか。(〇は1つ)

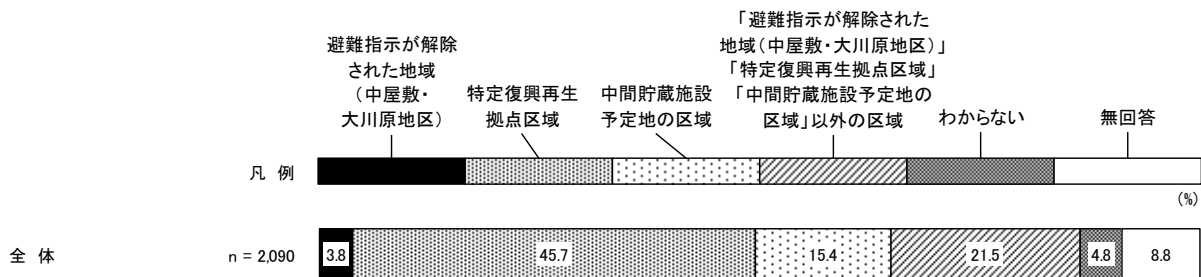
<図表3-2-1 震災発生当時の住まい>



3-2-2 震災発生当時の住まいの区域

【問4で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にかがいます。】
 問5-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。(〇は1つ)

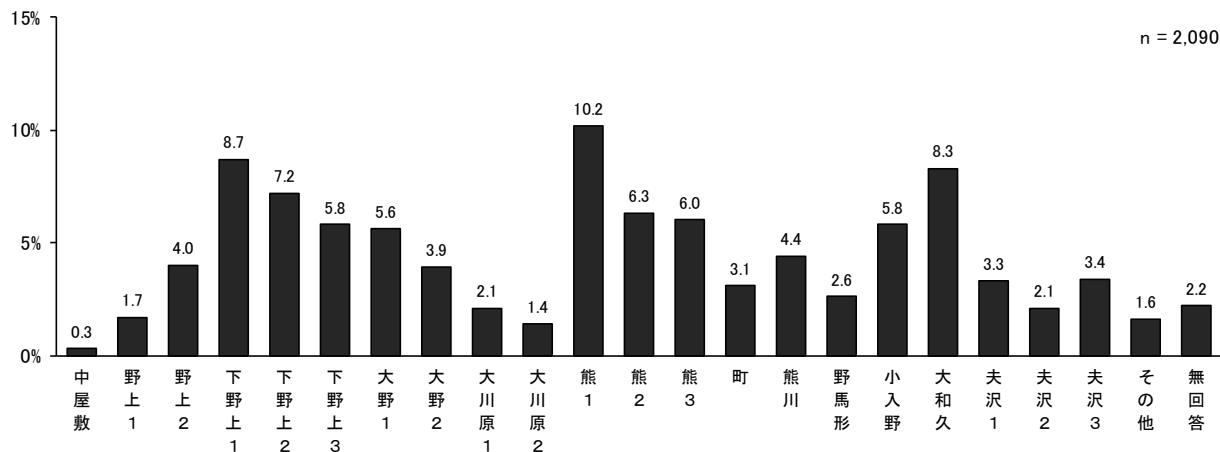
<図表3-2-2 震災発生当時の住まいの区域>



3-2-3 震災発生当時の住まいの行政区

【問4で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】
 問5-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(〇は1つ)

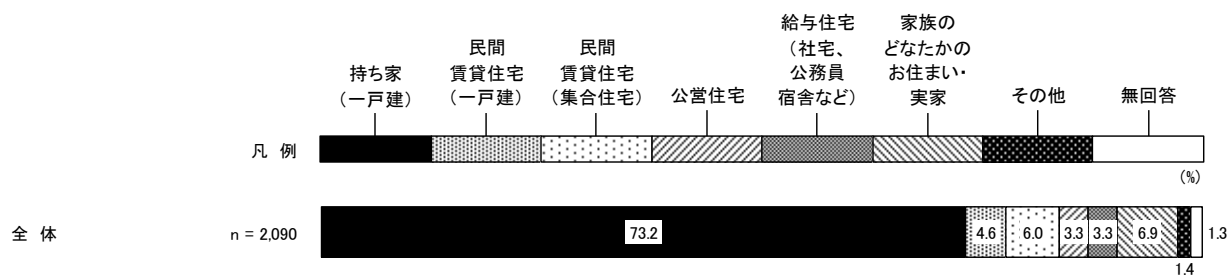
<図表3-2-3 震災発生当時の住まいの行政区>



3-2-4 震災発生当時の住居形態

【問4で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】
 問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。(〇は1つ)

<図表3-2-4 震災発生当時の住居形態>

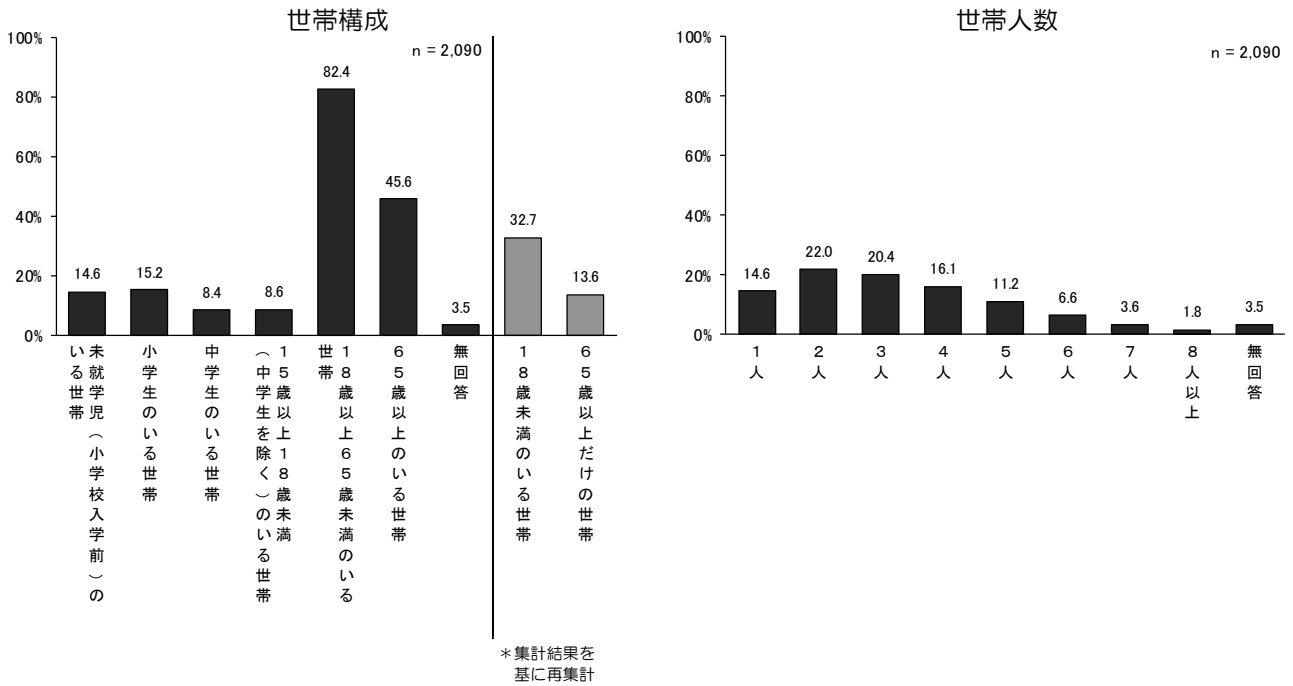


〔その他の内訳〕
 持ち家 (集合住宅) 0.2%
 親戚・知人宅 0.2%
 その他 1.0%

3-2-5 震災発生当時の世帯構成・人数

【問4で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】
 問7 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。
 (人数で回答)

<図表3-2-5 震災発生当時の世帯構成・人数>

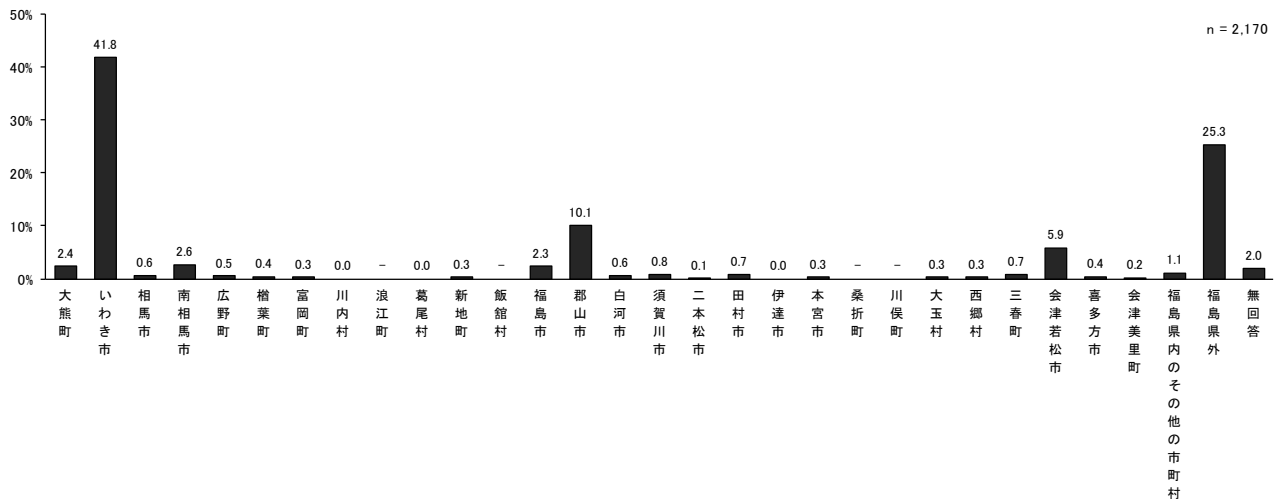


3-3 現在の状況

3-3-1 現在の居住自治体

問8 現在お住まいの自治体を教えてください。(〇は1つ)

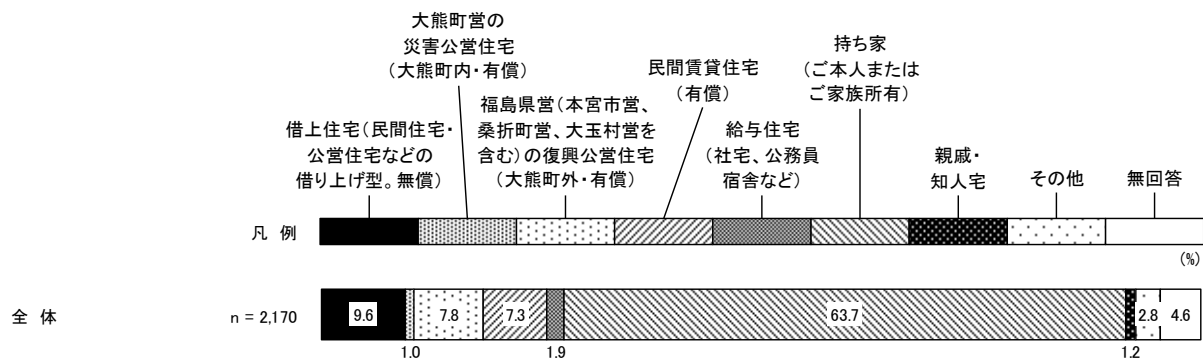
<図表3-3-1 現在の居住自治体>



3-3-2 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。(〇は1つ)

<図表3-3-2 現在の住居形態>



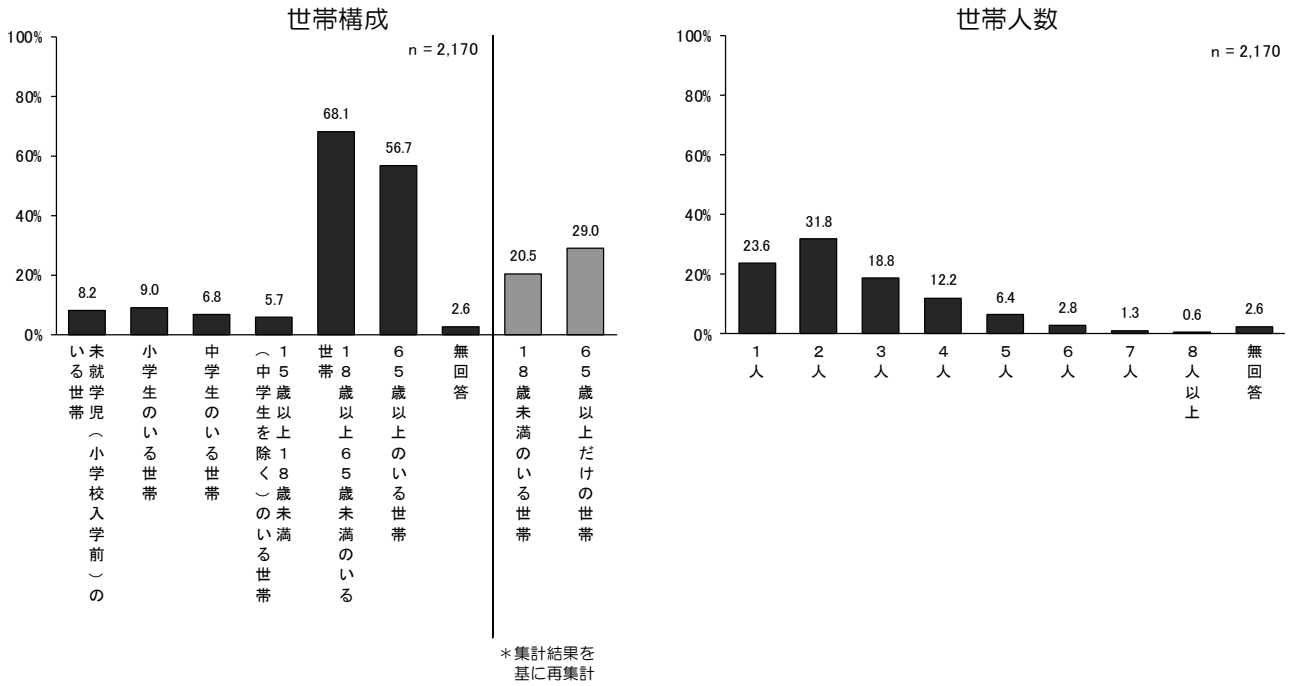
〔その他の内訳〕

応急仮設住宅(プレハブ型。無償)	0.5%
その他の公営住宅(有償)	0.4%
その他	1.9%

3-3-3 現在の世帯構成・人数

問 10 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

<図表3-3-3 現在の世帯構成・人数>

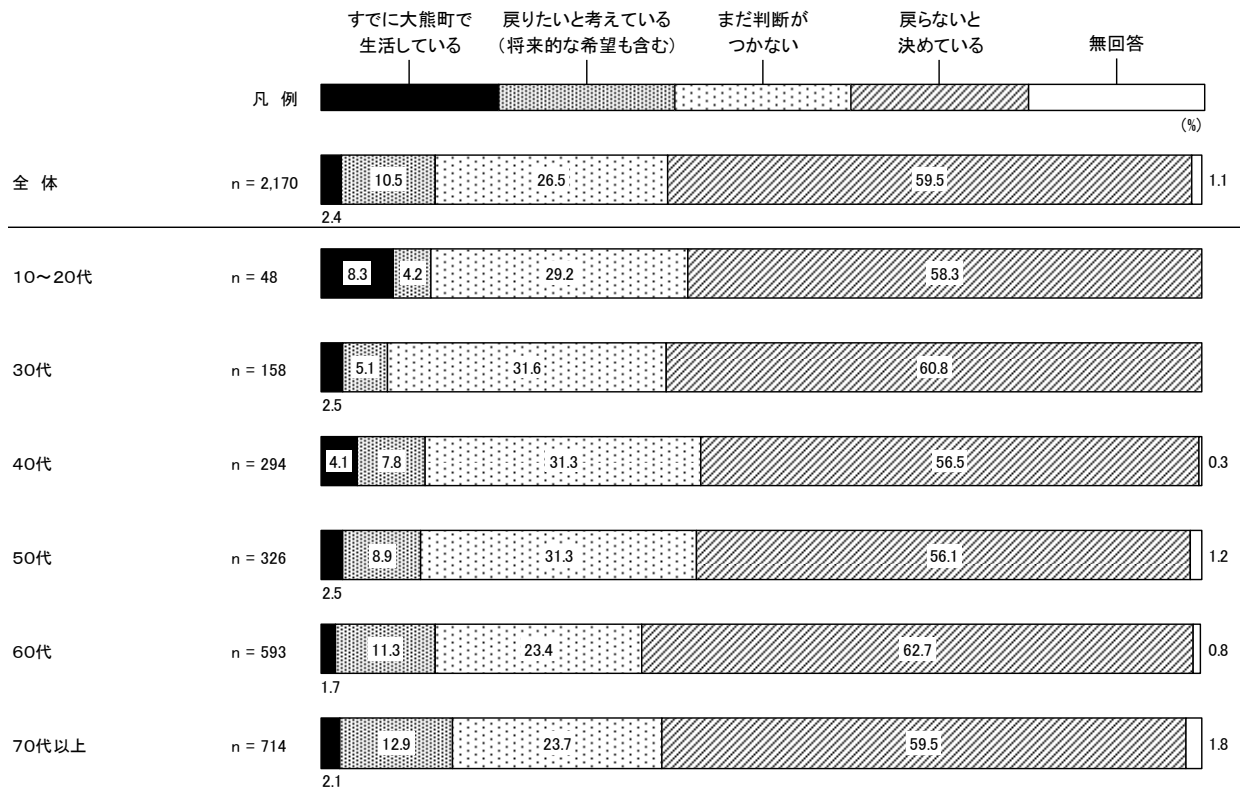


3-4 将来の意向

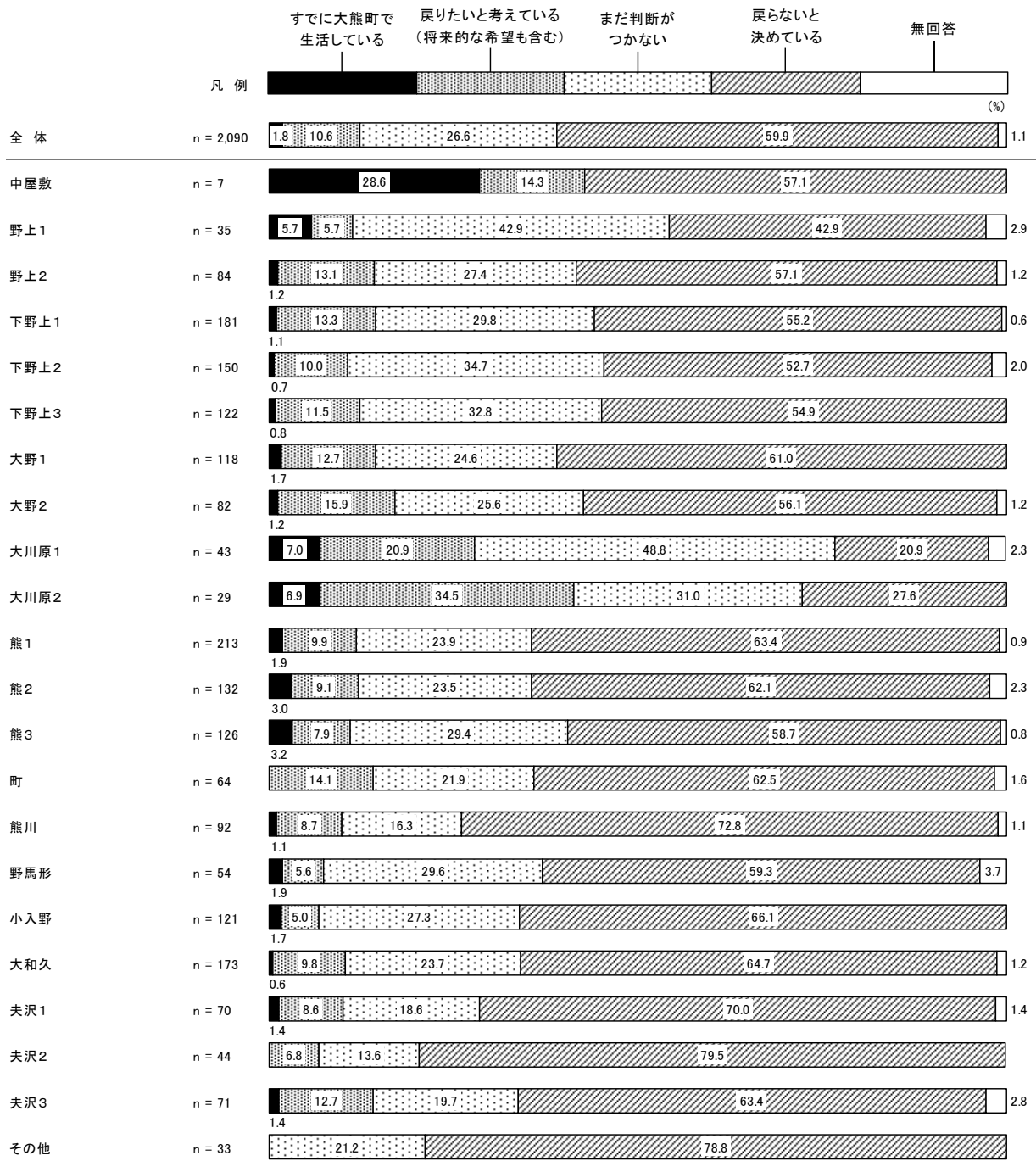
3-4-1 大熊町への帰町意向

問 11 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。(〇は1つ)

<図表3-4-1-1 大熊町への帰町意向(年齢別)>

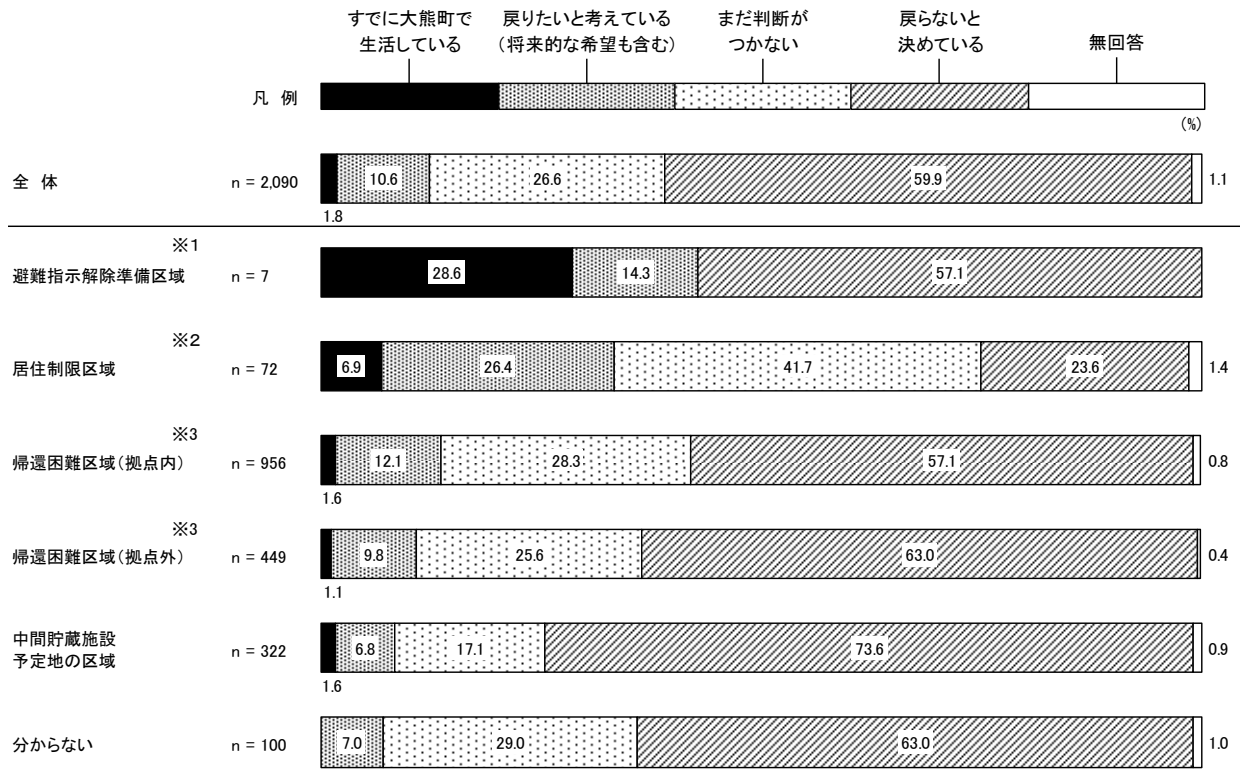


<図表3-4-1-2 大熊町への帰町意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>



※問4で「大熊町に住んでいた」と回答した方のみ

<図表3-4-1-3 大熊町への帰町意向（避難指示区域別）>



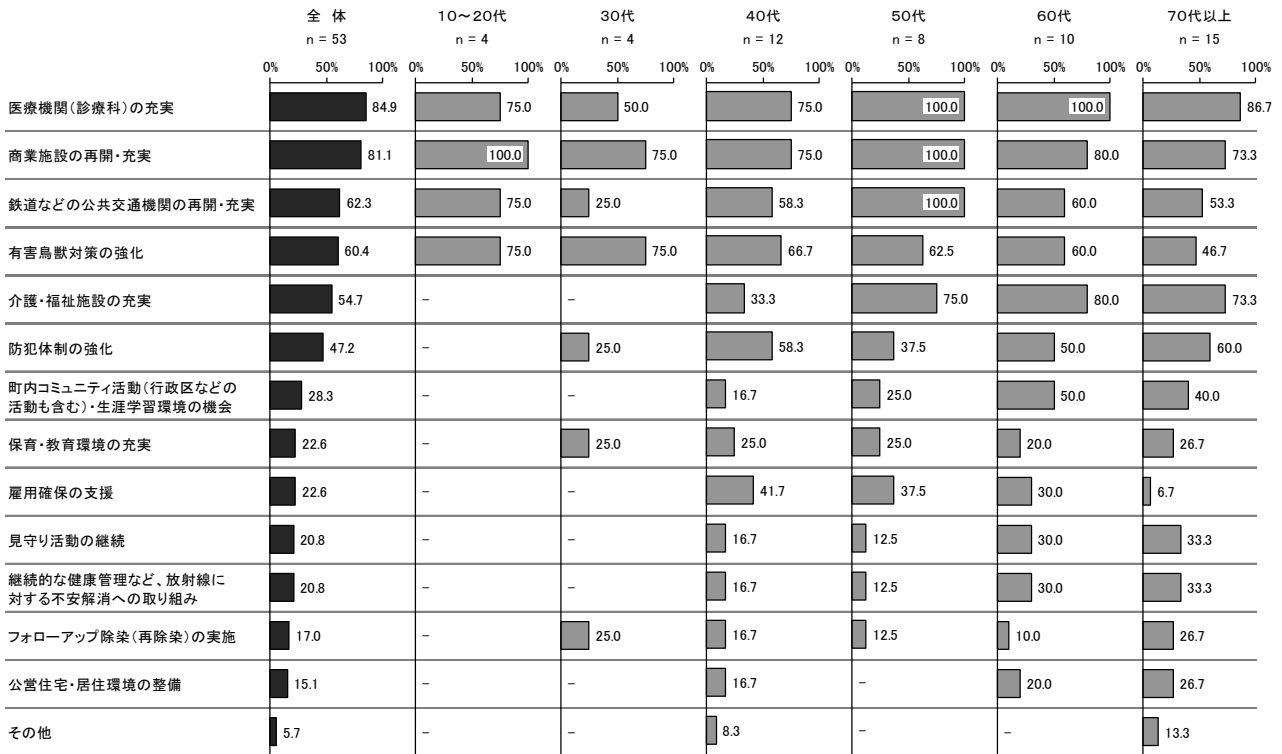
※問4で「大熊町に住んでいた」と回答した方のみ

- ※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み
- ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み
- ※3 「拠点」とは特定復興再生拠点のこと

3-4-2 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること

【問 11 で「1. すでに大熊町で生活している」と回答した方にうかがいます。】
 問 12 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。(〇はいくつでも)

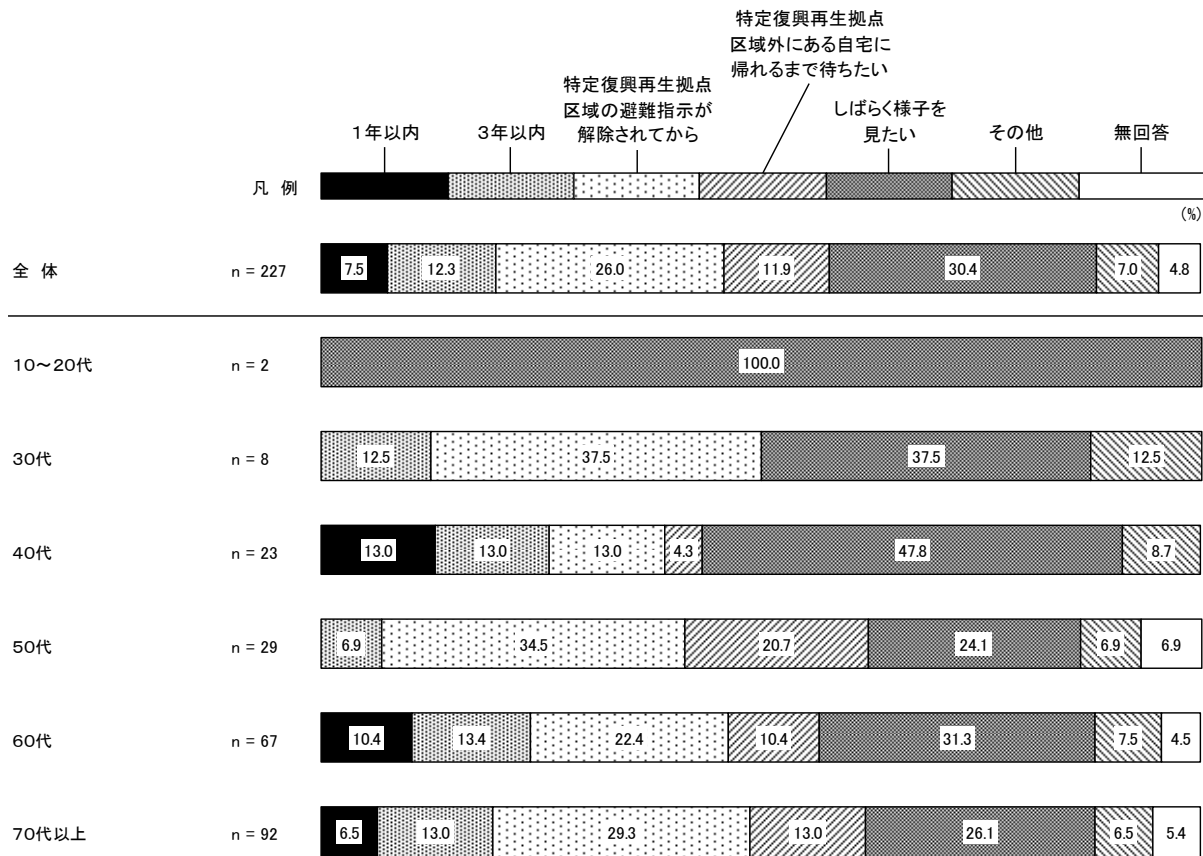
<図表3-4-2 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること(年齢別)>



3-4-3 大熊町への帰町時期

【問 11 で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問 13-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（〇は1つ）

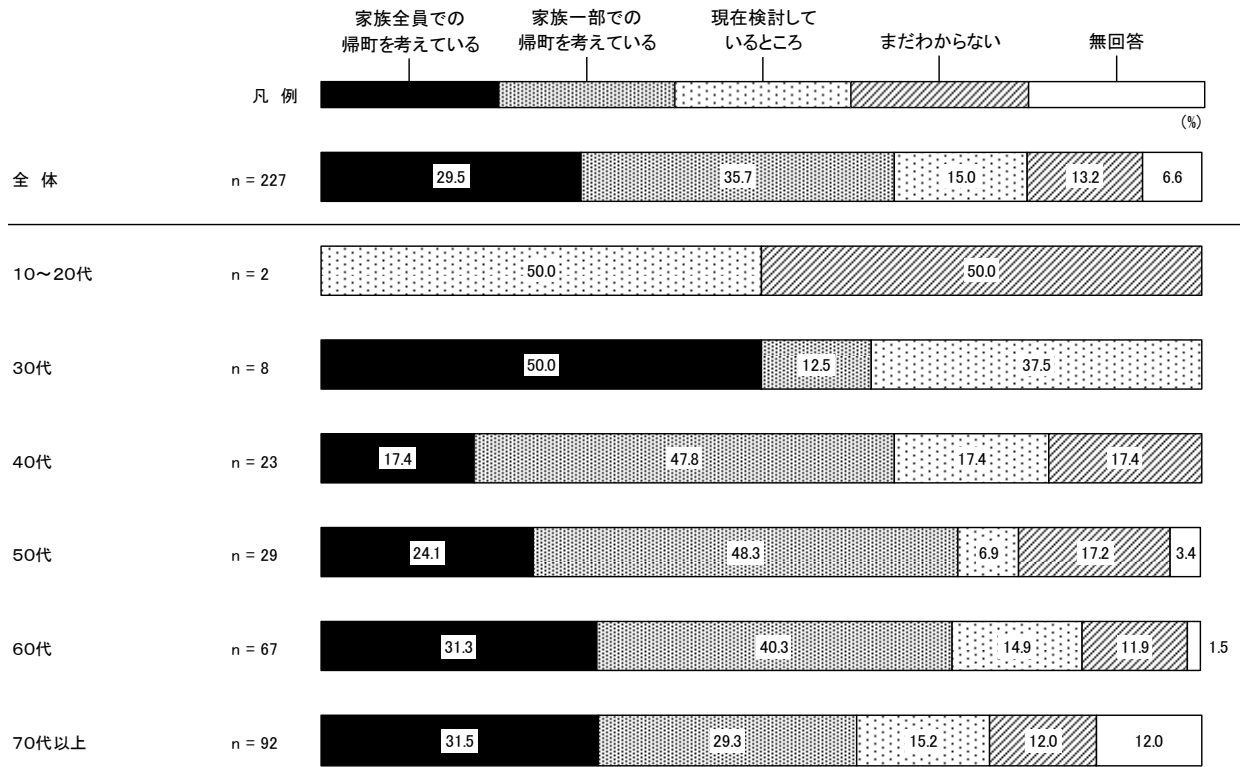
＜図表3-4-3 大熊町への帰町時期（年齢別）＞



3-4-4 大熊町へ帰町する場合の家族

【問 11 で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問 13-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

<図表3-4-4 大熊町へ帰町する場合の家族（年齢別）>

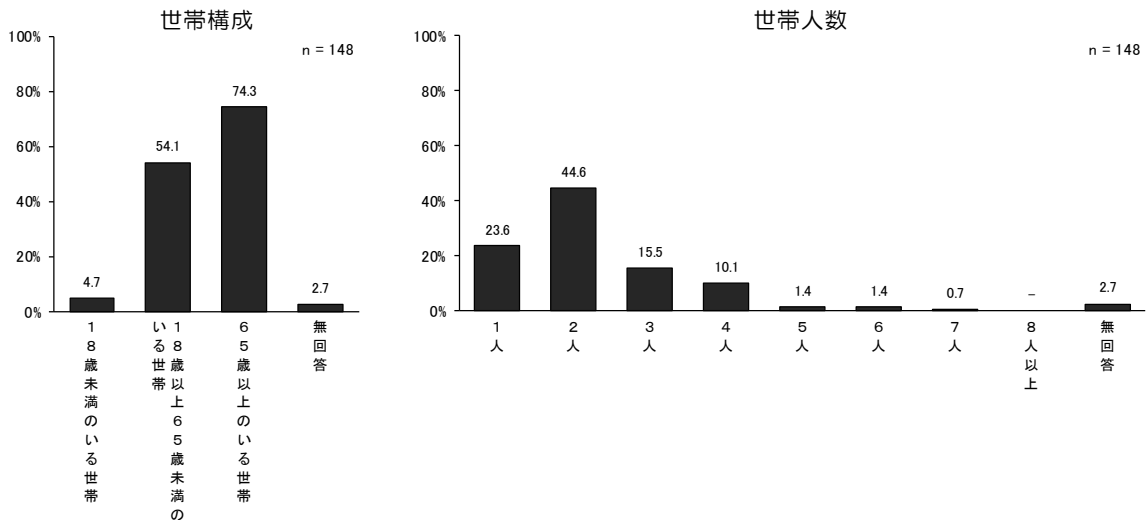


3-4-5 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数

【問 13-2 で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

<図表3-4-5 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数>

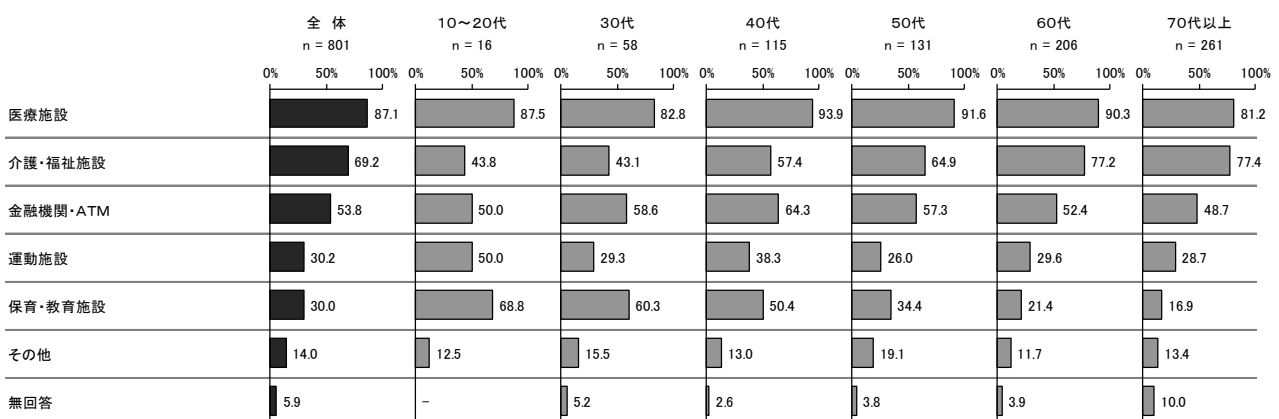


3-4-6 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設

【問 11 で「2. 戻りたいと考えている (将来的な希望も含む)」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考える施設を教えてください。(〇はいくつでも)
※交流施設、商業施設、宿泊施設は町で整備を予定していますので、それ以外の施設を教えてください。

<図表3-4-6 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設 (年齢別) >

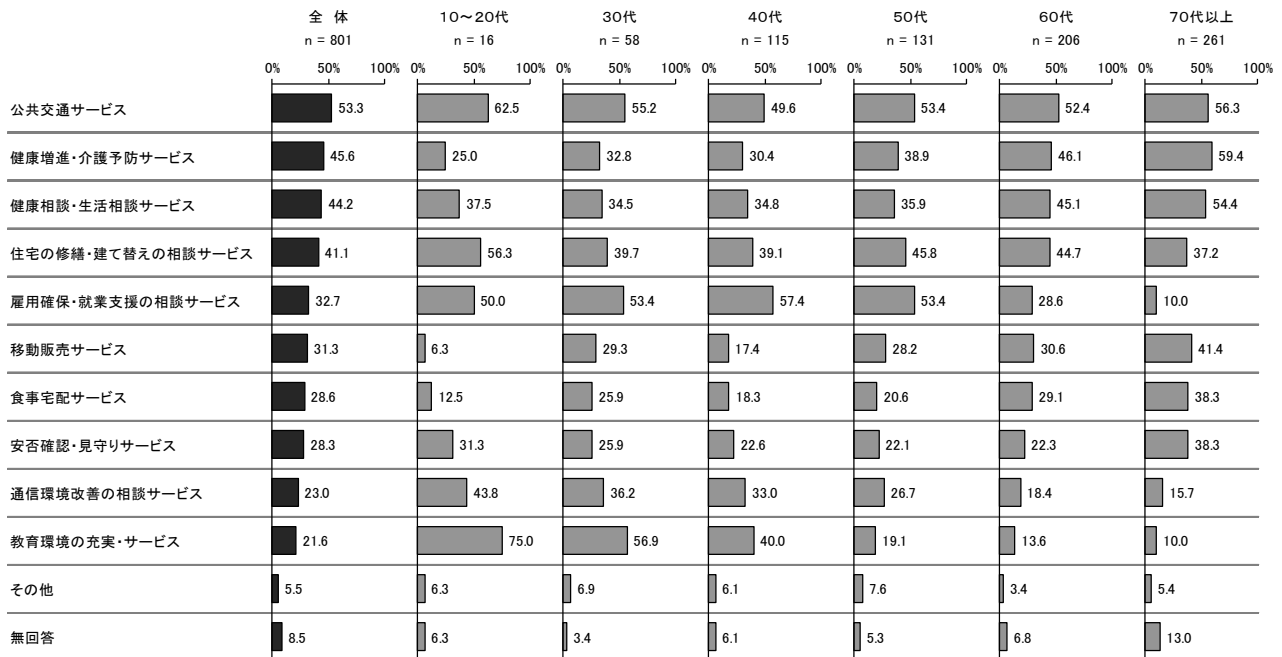


3-4-7 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス

【問 11 で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。
(〇はいくつでも)

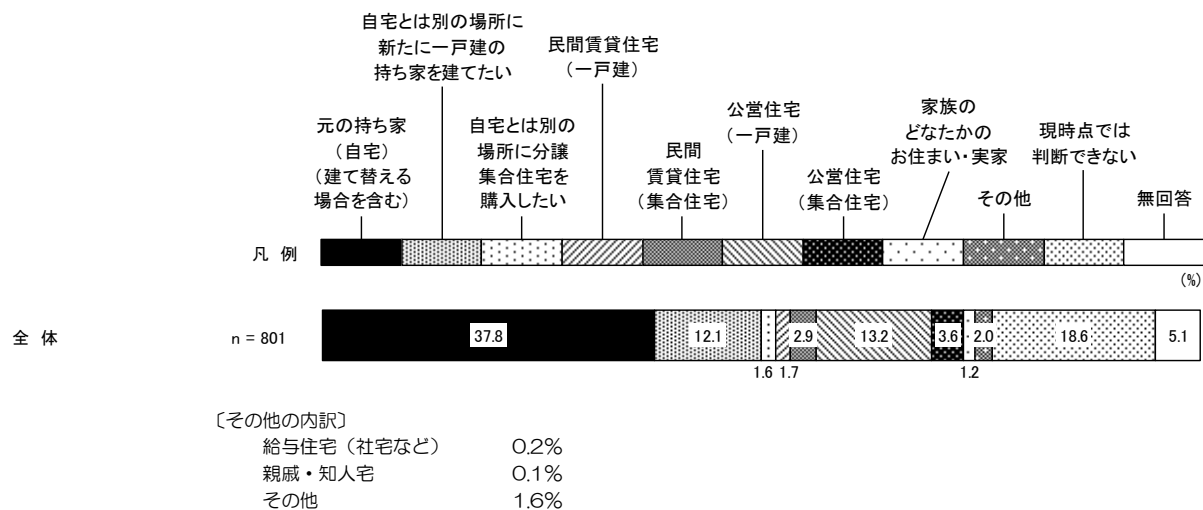
<図表 3-4-7 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（年齢別）>



3-4-8 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態

【問11で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問14-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

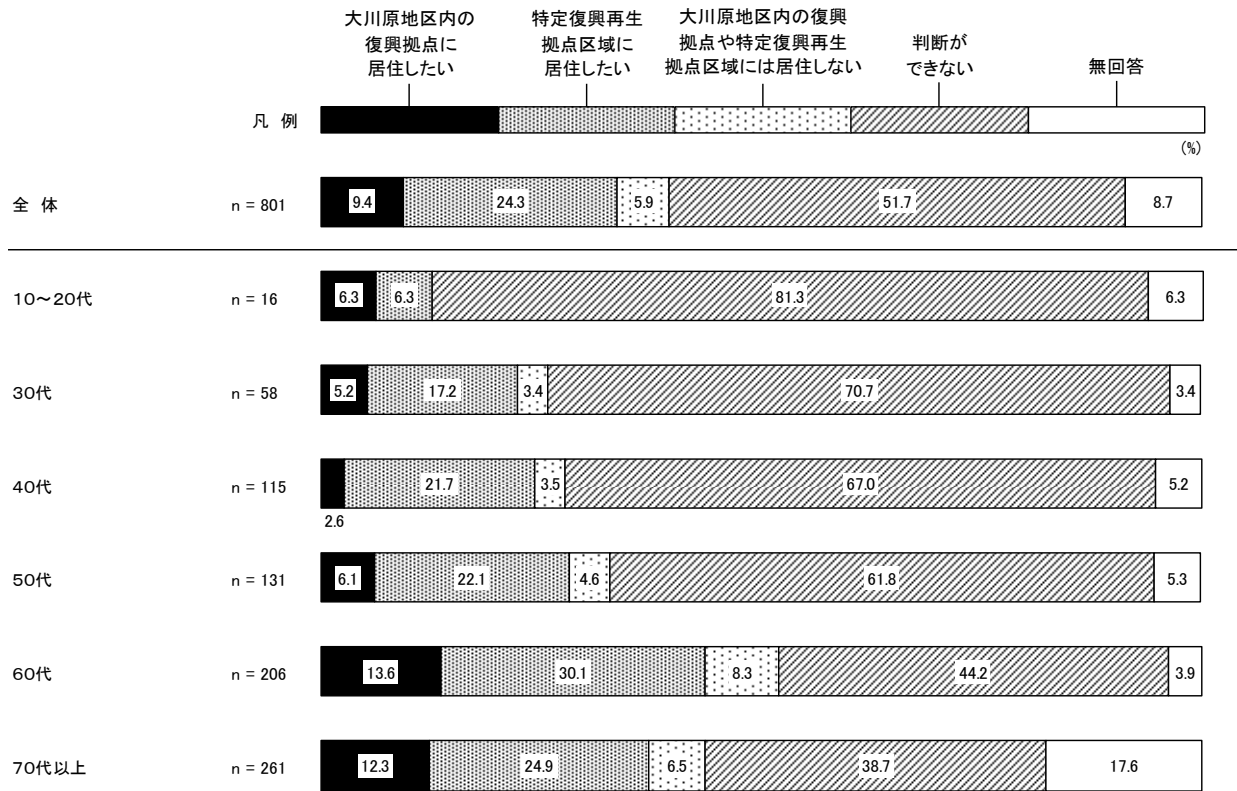
＜図表3-4-8 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態＞



3-4-9 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向

【問 11 で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問 14-4 大川原地区内の「復興拠点」やJR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（○は1つ）

<図表3-4-9 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（年齢別）>

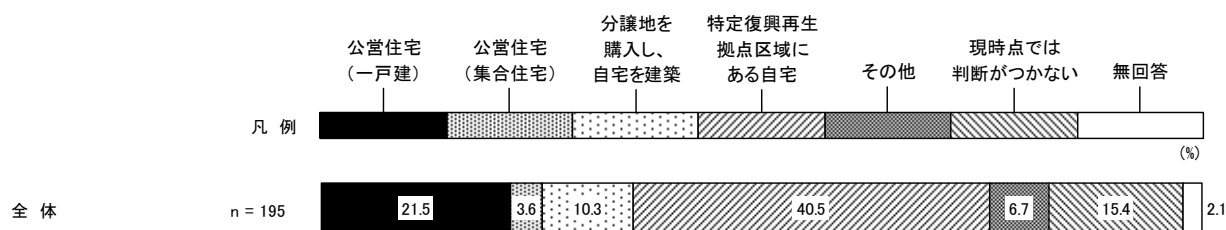


3-4-10 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態

【問 14-4 で「2. 特定復興再生拠点区域に居住したい」と回答した方にかがいます。】

問 14-5 JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に、町により住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

<図表3-4-10 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態>

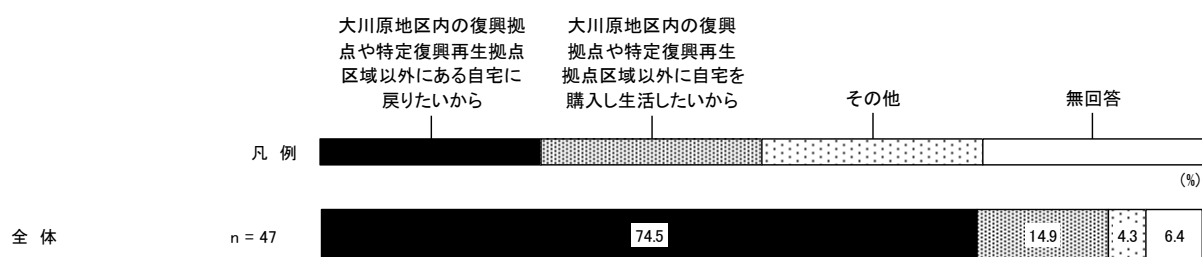


3-4-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由

【問 14-4 で「3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方にかがいます。】

問 14-6 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に居住しない理由はどのようなことですか。(〇は1つ)

<図表3-4-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由>

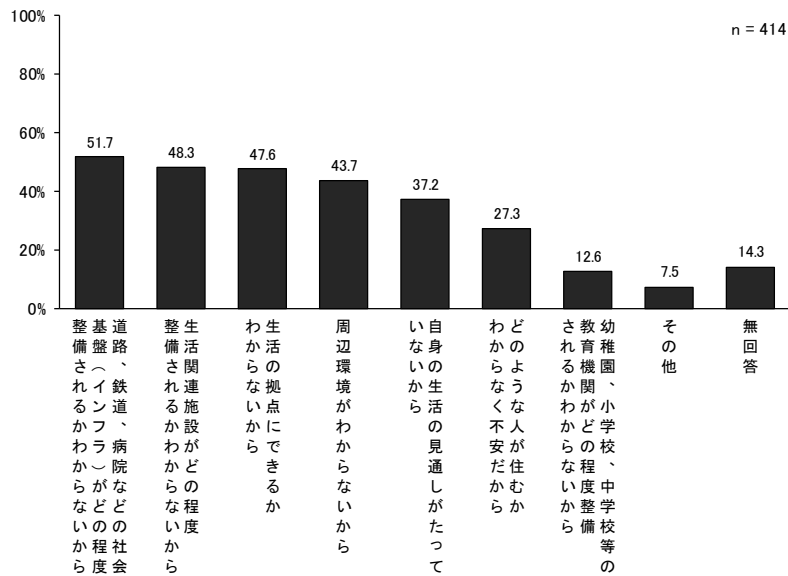


3-4-12 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由

【問 14-4 で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-7 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

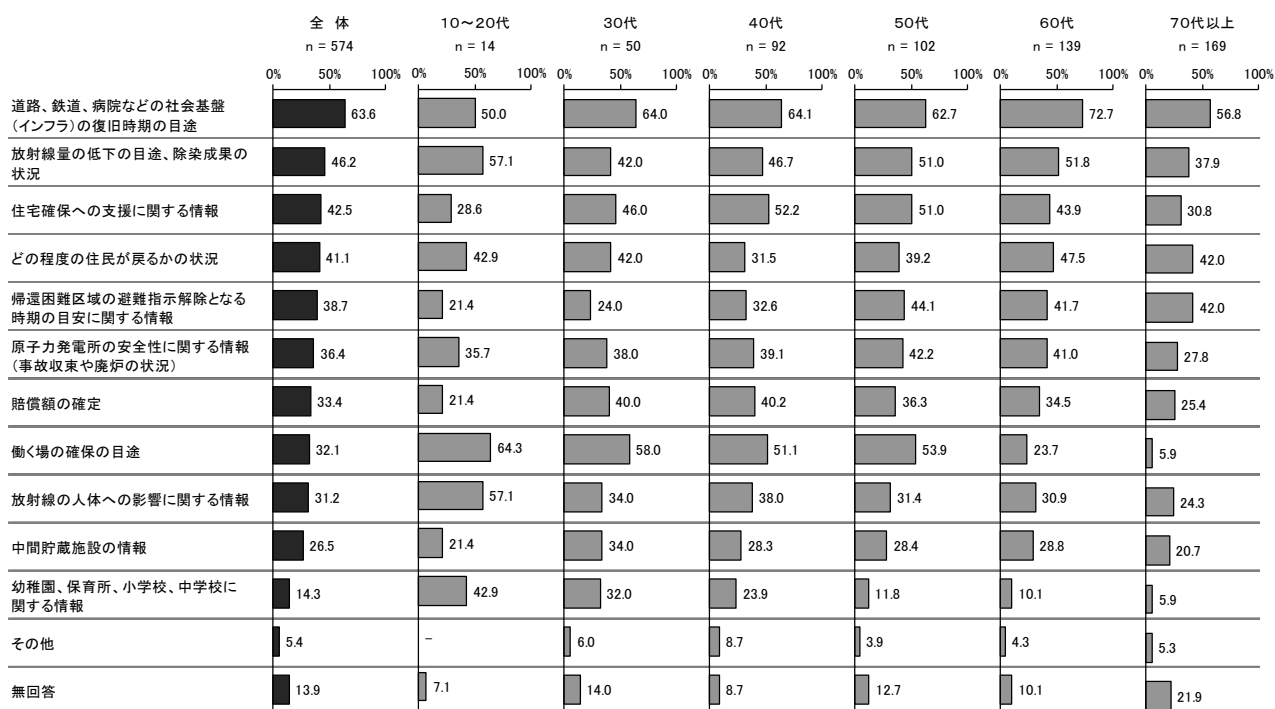
<図表3-4-12 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由>



3-4-13 大熊町への帰町を判断するために必要なこと

【問 11 で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問 15 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

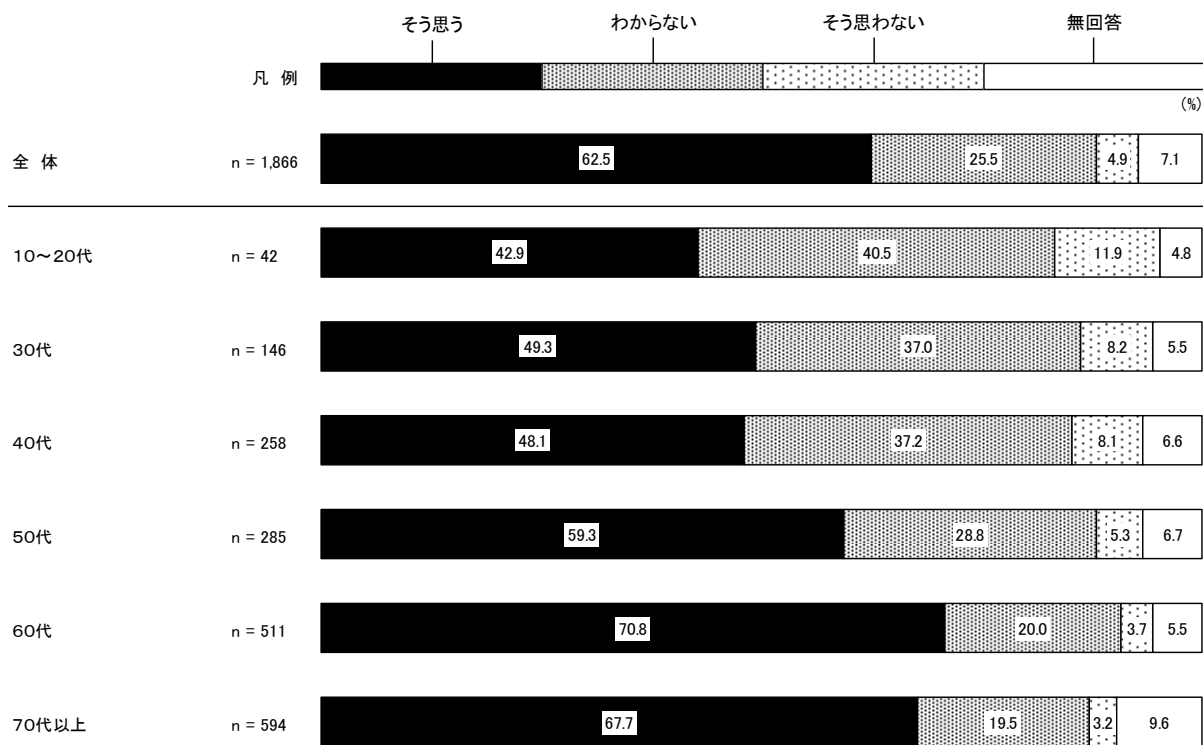
＜図表3-4-13 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（年齢別）＞



3-4-14 大熊町との「つながり」を保ちたいか

【問 11 で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 16-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

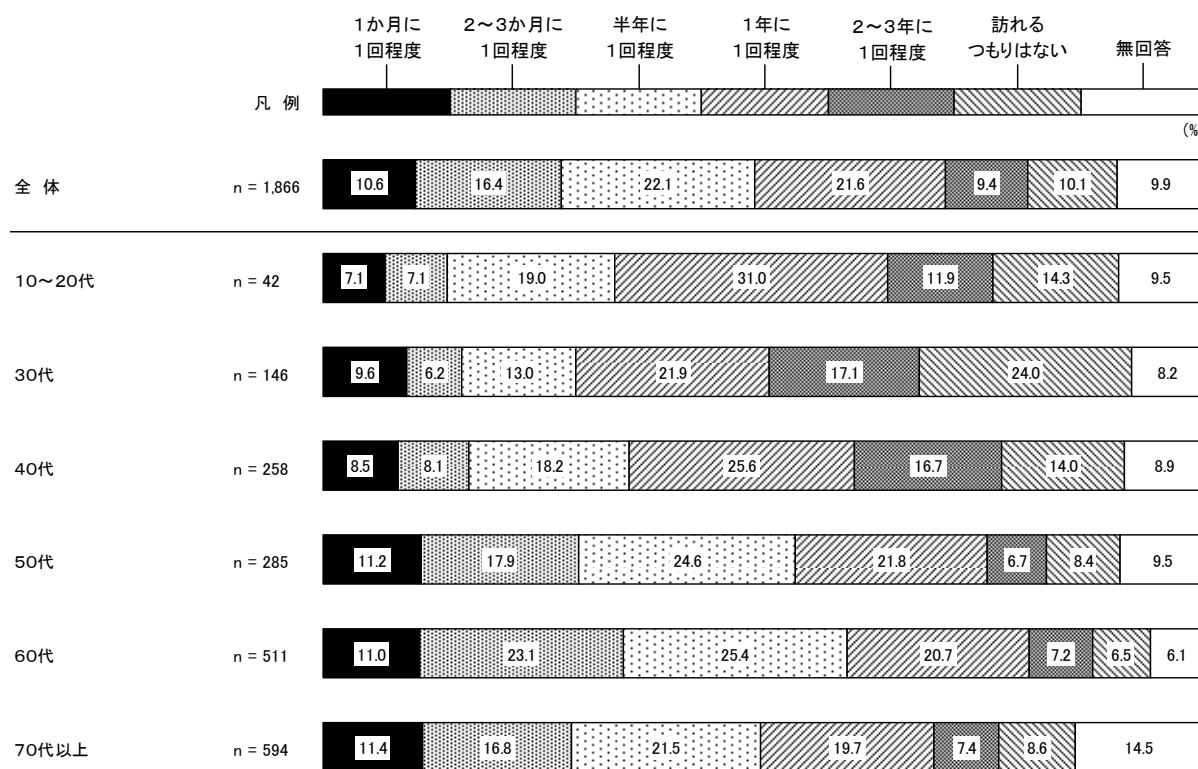
<図表3-4-14 大熊町との「つながり」を保ちたいか(年齢別)>



3-4-15 大熊町を訪れたい頻度

【問 11 で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 16-2 大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。(〇は1つ)

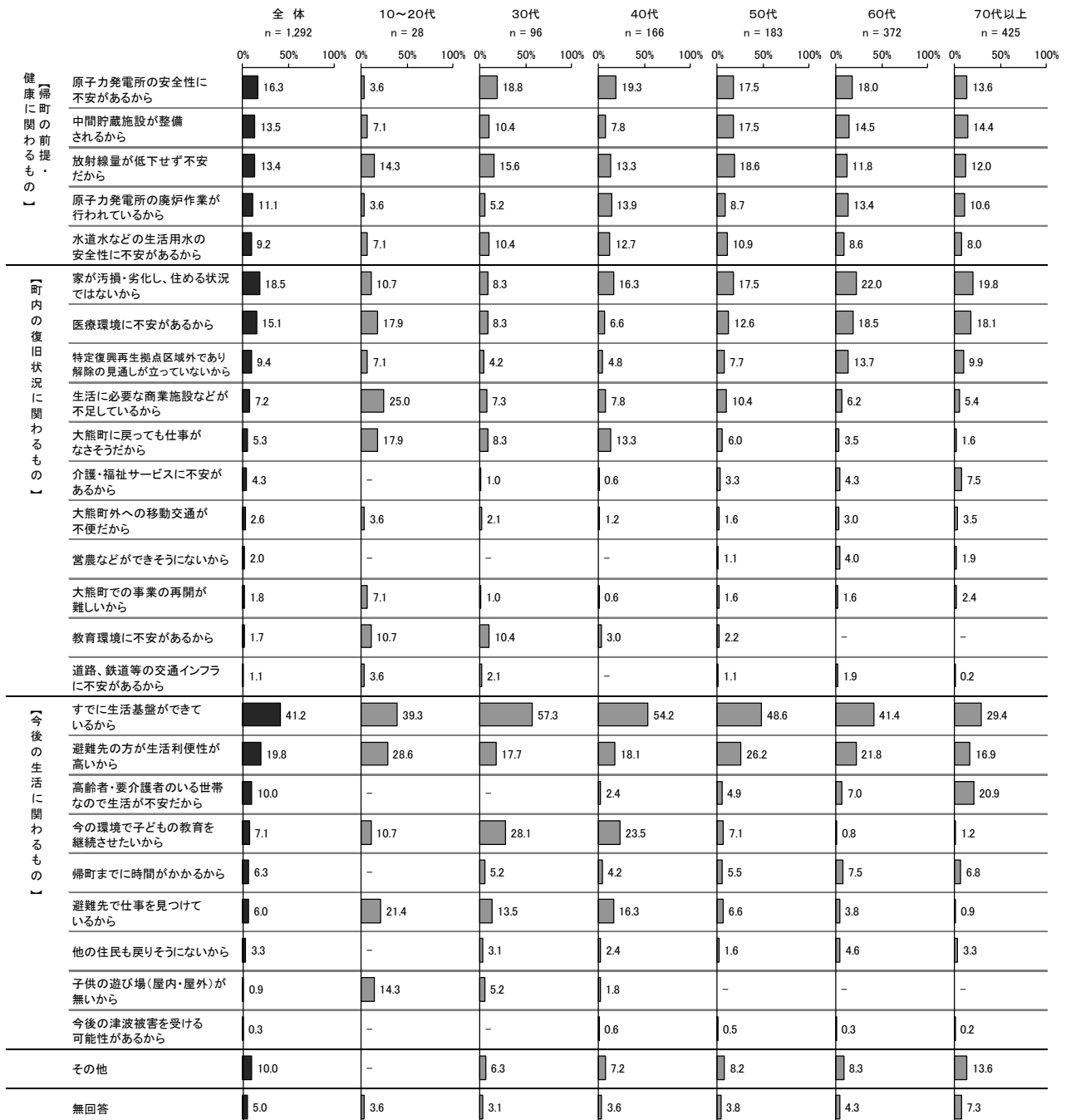
<図表3-4-15 大熊町を訪れたい頻度(年齢別)>



3-4-16 現時点で戻らないと決めている理由

【問 11 で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 17-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇は3つまで)

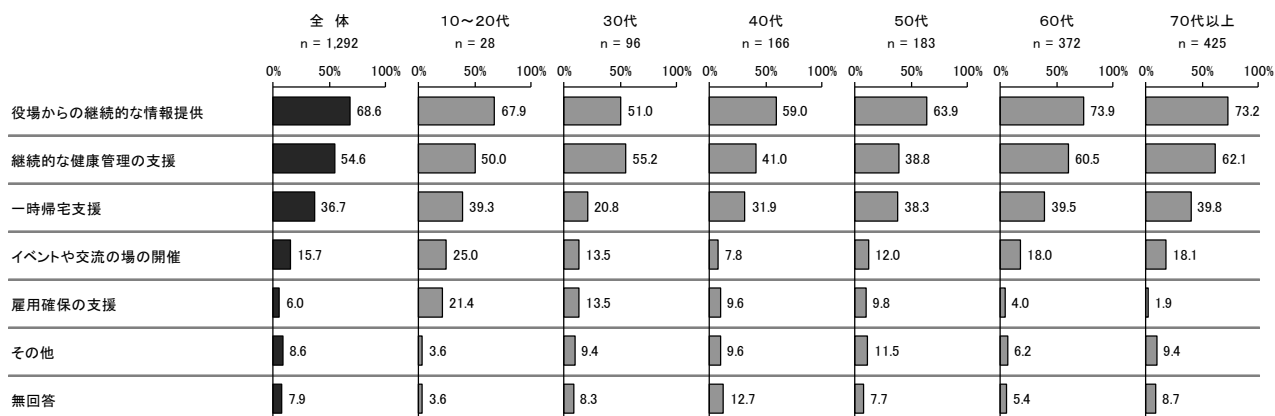
<図表 3-4-16 現時点で戻らないと決めている理由(年齢別)>



3-4-17 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援

【問 11 で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 17-2 戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

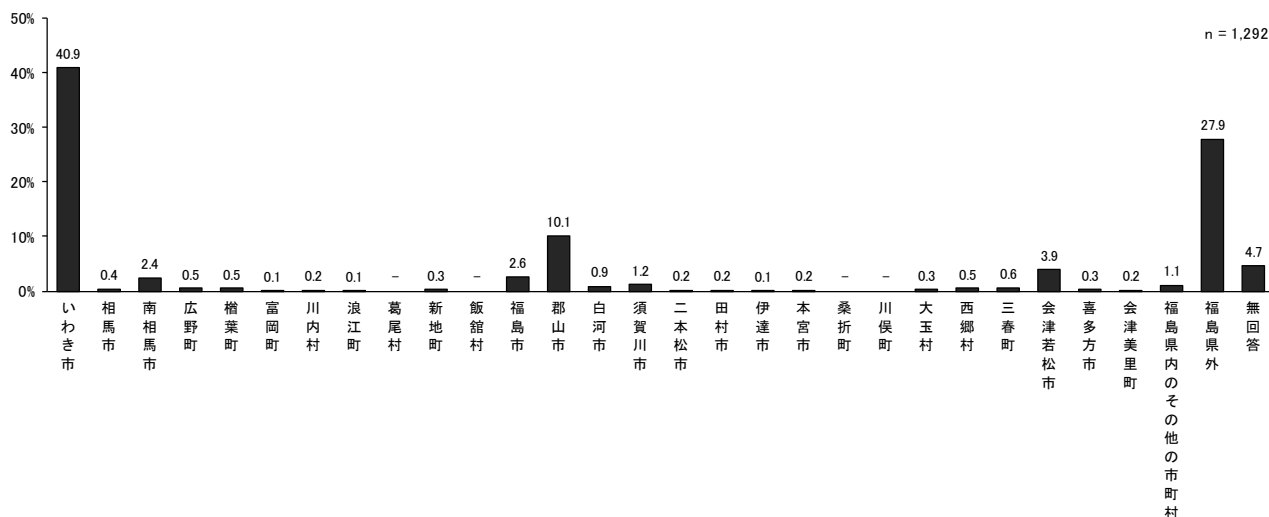
＜図表3-4-17 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



3-4-18 帰町しない場合に居住を希望する自治体

【問 11 で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問 17-3 戻らない場合に、今後の居住を検討している（既に居住している場合を含む）自治体はどの自治体になるかを教えてください。(〇は1つ)

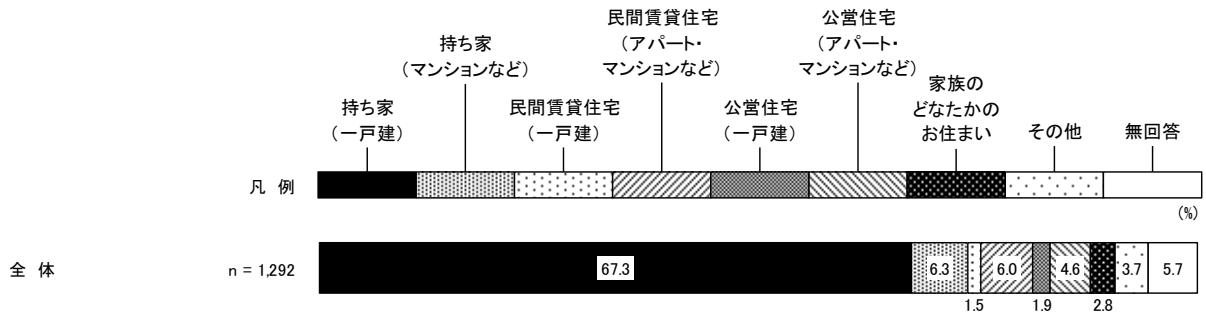
＜図表3-4-18 帰町しない場合に居住を希望する自治体＞



3-4-19 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問11で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問17-4 戻らない場合に、今後のお住まいとして希望する（既に居住している場合を含む）住宅は、どのような形態ですか。（〇は1つ）

<図表3-4-19 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態>



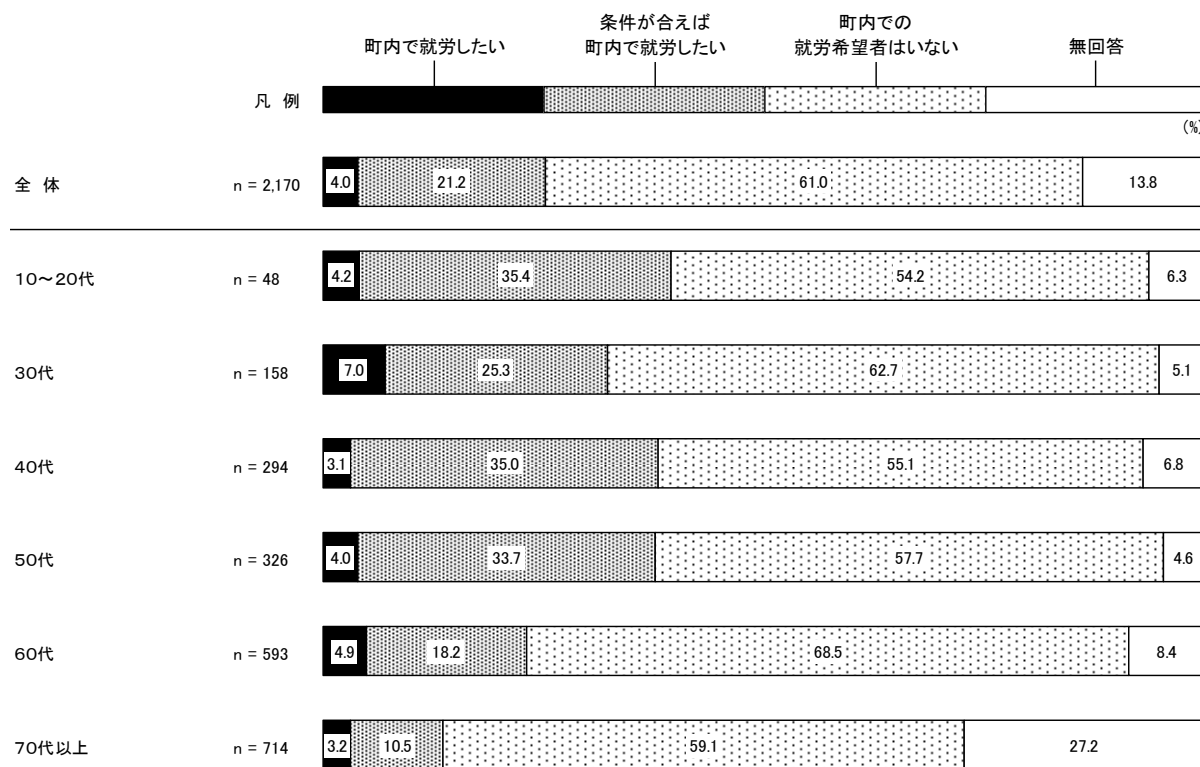
〔その他の内訳〕

給与住宅（社宅など）	0.2%
親戚・知人宅	0.8%
その他	2.8%

3-4-20 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向

問 18 町では町内への企業立地を進めております。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

<図表3-4-20 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向(年齢別)>

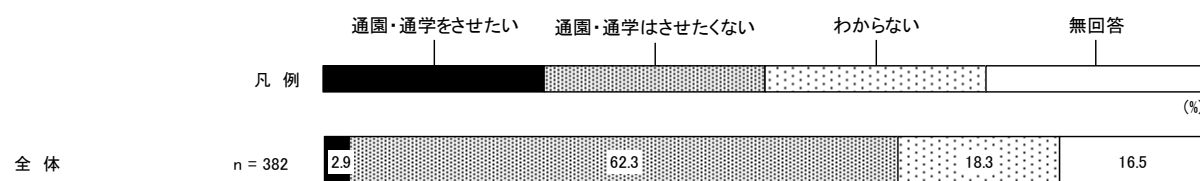


3-4-21 大川原地区への通園・通学の意向

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】

問 19-1 町では令和4年春に町内の大川原地区での学校の再開を目指しています。その際お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。(〇は1つ)

<図表3-4-21 大川原地区への通園・通学の意向>

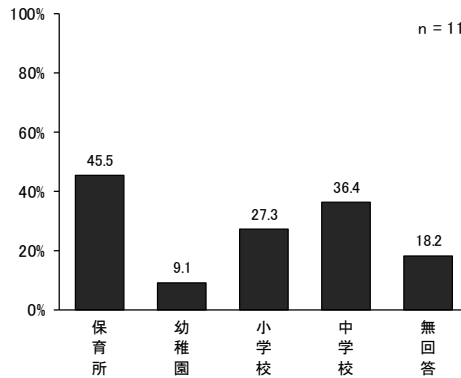


※問 10 で「未就学児(小学校入学前)」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した方のみで集計

3-4-22 大川原地区で通園・通学をさせたい校種

【問 19-1 で「1. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。
 問 19-2 お子様・お孫様に通園・通学をさせたい校種について教えてください。(〇はいくつでも)

<図表3-4-22 大川原地区で通園・通学をさせたい校種>

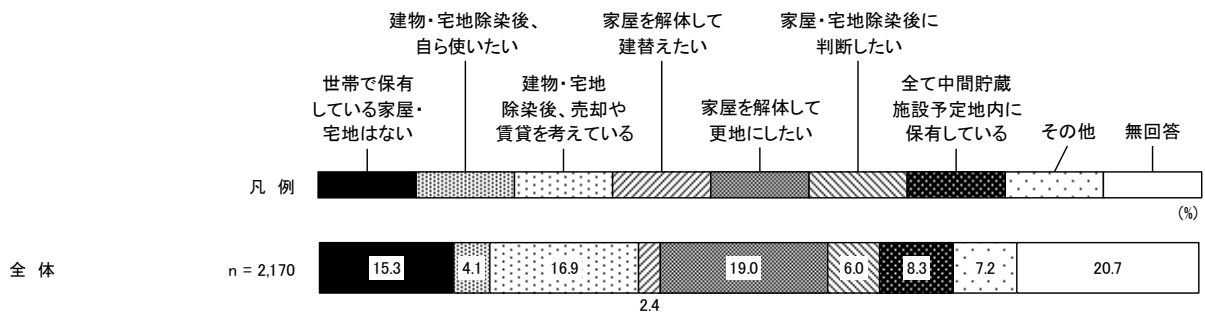


※問 10 で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した方のみで集計

3-4-23 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向

問 20-1 町内に保有している家屋・宅地の利用意向についてうかがいます。
 現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。(〇は1つ)
 (複数所有している場合は自宅についてお答えください)

<図表3-4-23 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向>



〔その他の内訳〕
 建物・宅地除染後、親戚・親族・友人に使ってもらいたい 0.3%
 その他 6.9%

3-4-24 不動産利活用事業への登録

【問 20-1 で「4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】
 問 20-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。(〇は1つ)

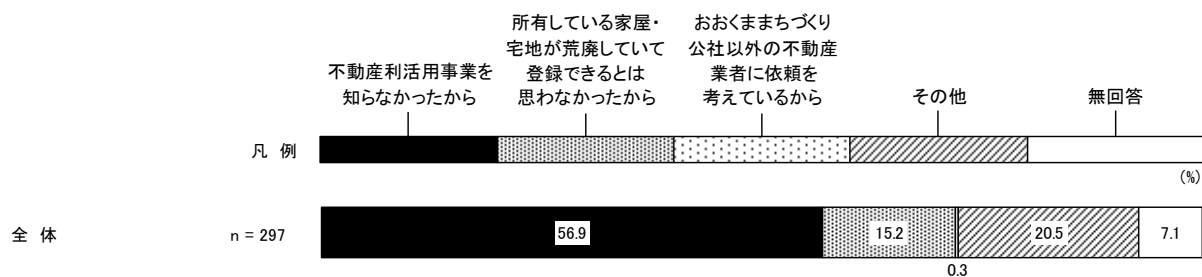
<図表3-4-24 不動産利活用事業への登録>



3-4-25 不動産利活用事業に登録していない理由

【問 20-2 で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】
 問 20-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。(〇は1つ)

<図表3-4-25 不動産利活用事業に登録していない理由>

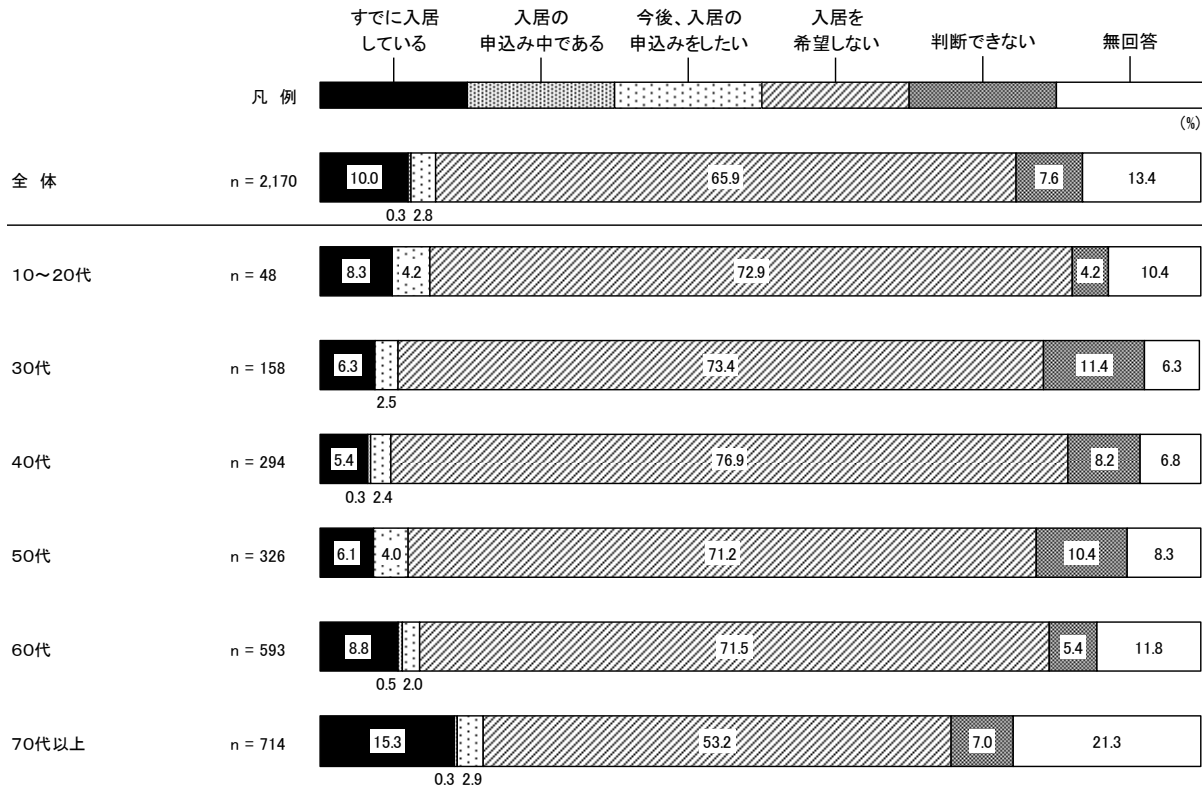


3-5 復興公営住宅

3-5-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向

問 21-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

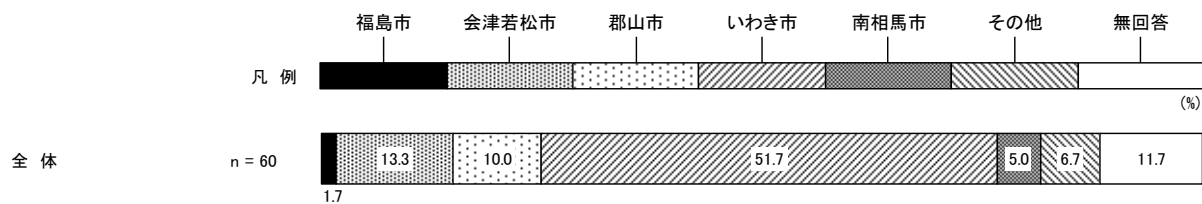
<図表3-5-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



3-5-2 福島県営の復興公営住宅の入居を希望する自治体

【問 21-1 で「3. 今後、入居の申込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
 問 21-2 入居を希望する市町村について教えてください。（○は1つ）

<図表3-5-2 福島県営の復興公営住宅の入居を希望する自治体>



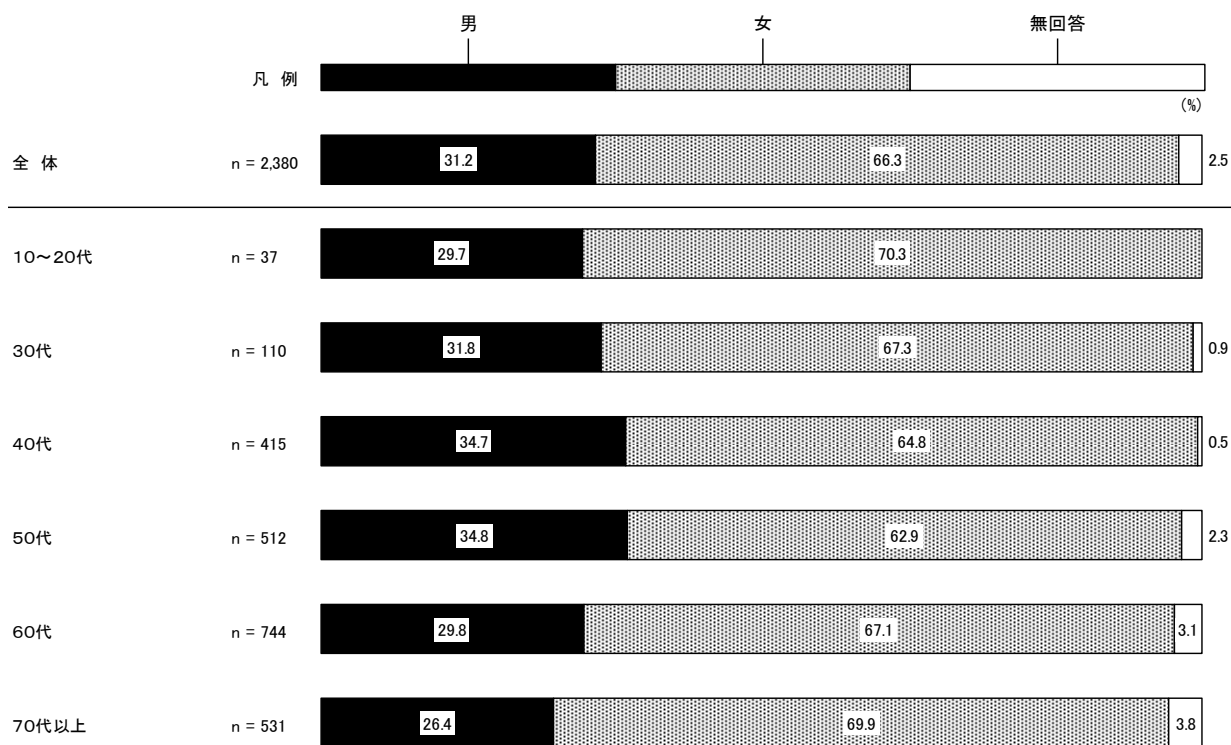
〔その他の内訳〕
 白河市 -
 二本松市 -
 田村市 -
 本宮市 -
 その他 6.7%

3-6 全世帯員の意向

3-6-1 性別

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (性別)

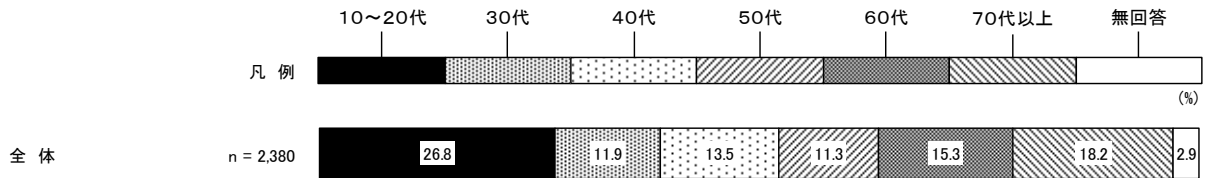
<図表3-6-1 性別(年齢別)>



3-6-2 年齢

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (年齢)

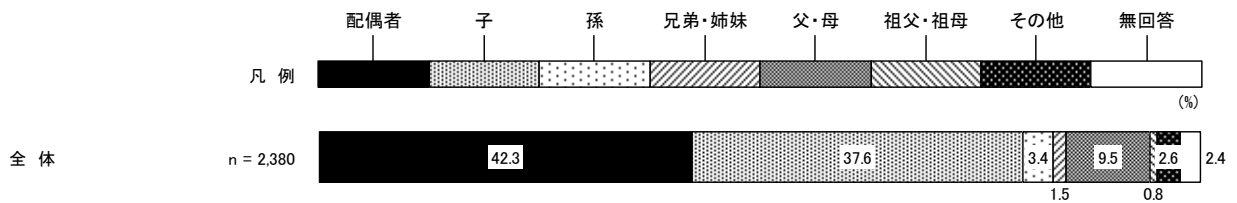
<図表3-6-2 年齢>



3-6-3 調査回答者との続柄

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (あなたとの続柄)

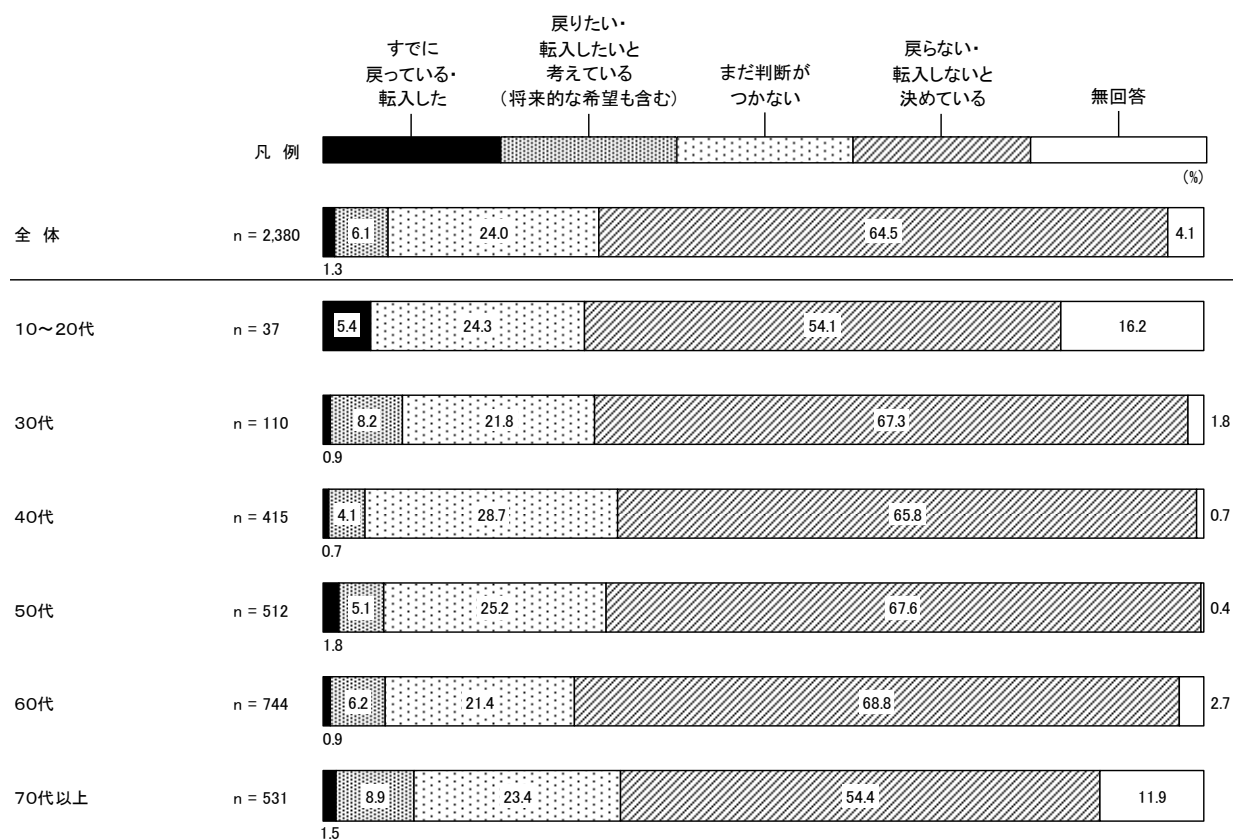
<図表3-6-3 調査回答者との続柄>



3-6-4 大熊町への帰町・転入の意向

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (大熊町への帰町・転入の意向)

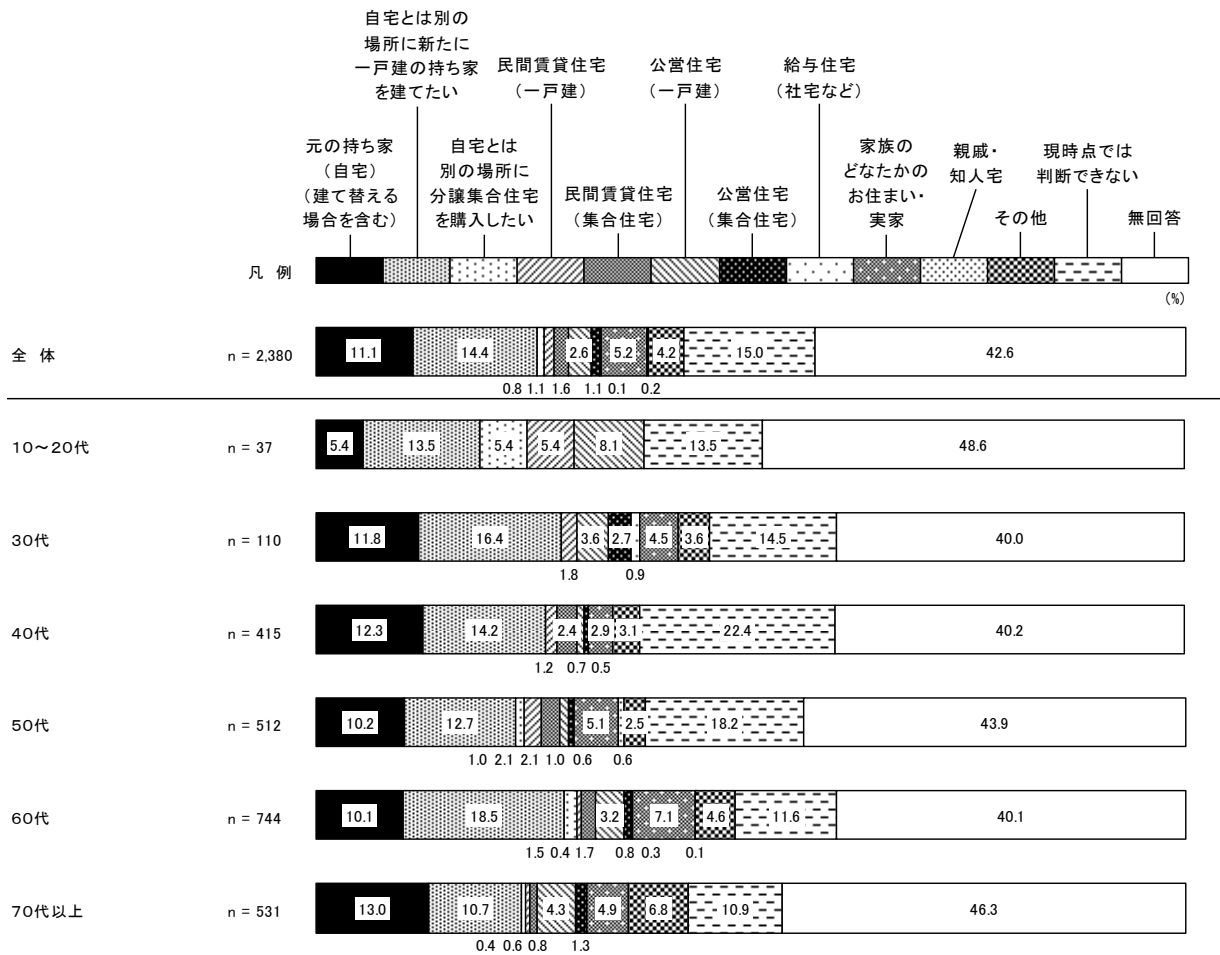
<図表3-6-4 大熊町への帰町・転入の意向(年齢別)>



3-6-5 今後の住まいの意向

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (今後の住まいの意向)

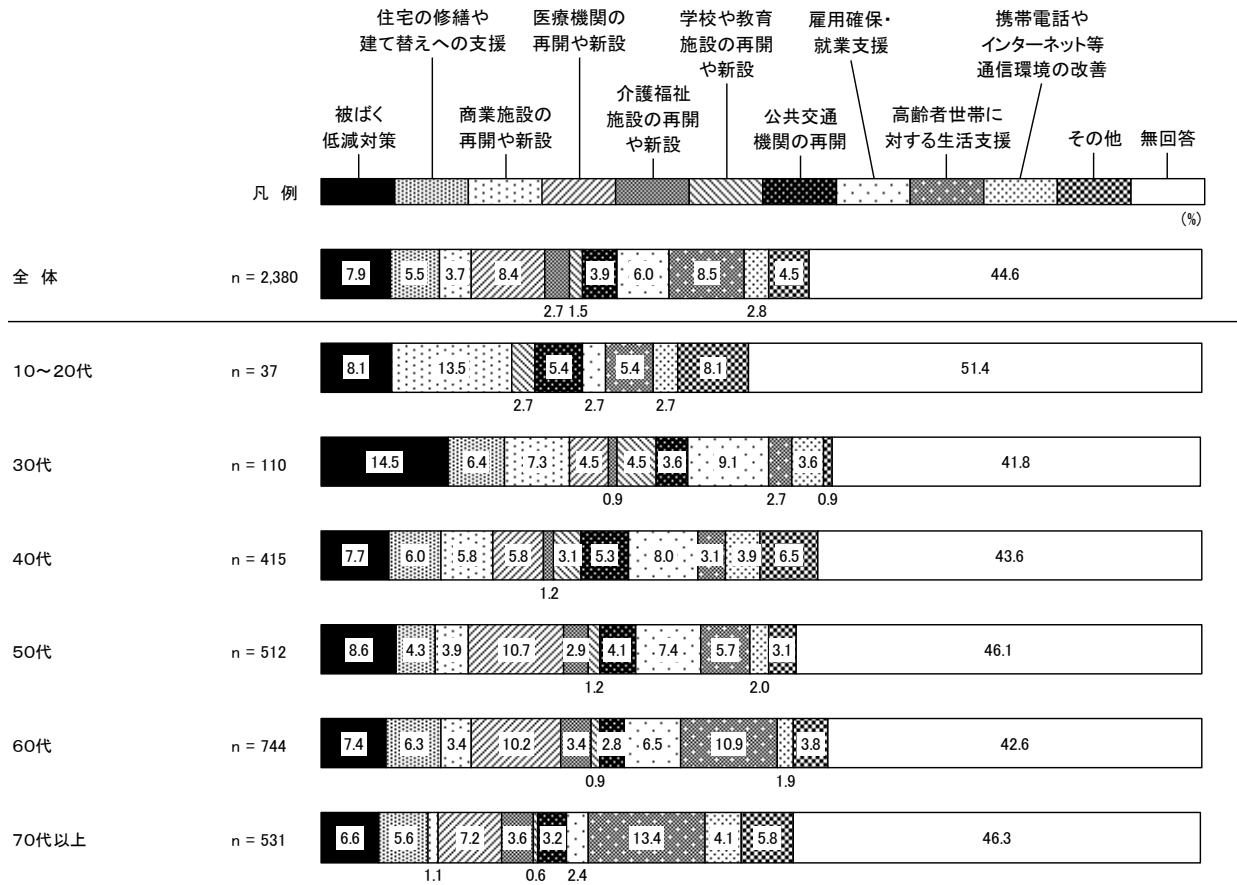
<図表3-6-5 今後の住まいの意向(年齢別)>



3-6-6 大熊町に求める支援等

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 (大熊町に求める支援等)

<図表3-6-6 大熊町に求める支援等(年齢別)>



3-7 意見・要望

問 23 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、665 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

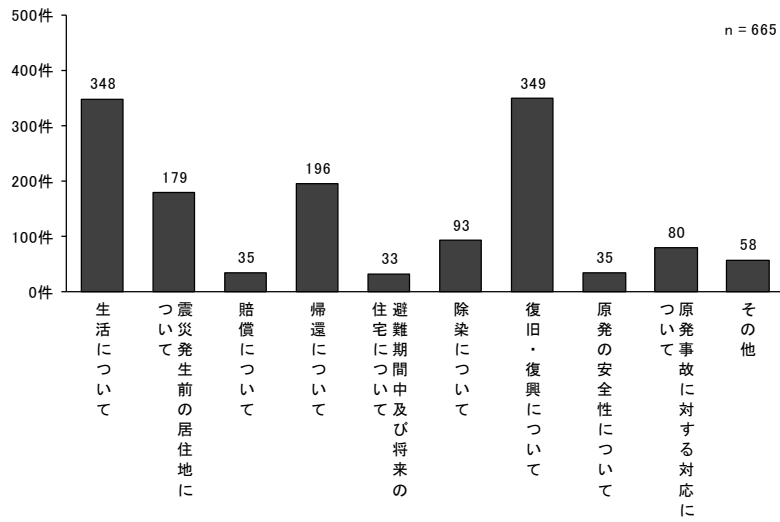
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにについてのあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意識について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果等について ・除染作業の実施箇所等について ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染産廃物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地等の管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

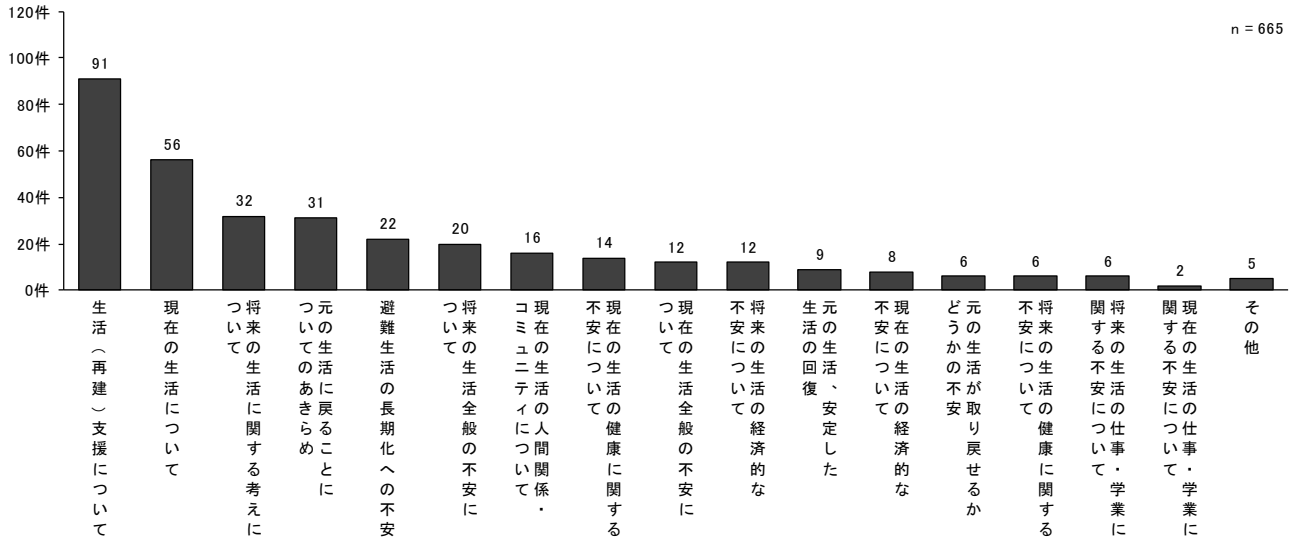
3-7-1 意見に係る記入内容の分類結果

<図表3-7-1 意見に係る記入内容の分類結果>



3-7-2 生活について

<図表3-7-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[生活（再建）支援について]

- 自分は大熊がすごく好きです。でも帰るにはあまりにも時間がかかりすぎるようで、仕事もなくいわきで仕事をしています。母は、“大熊で死にたい”といつも言っています。自分は我慢できるが、年寄りはいわきがかわいそうな気がします。もっと年寄りが集まれる所を作る等、生活（いわきはいろいろ高いので）がしやすい様な支援を考えてほしいです。（10～20代）
- 震災で長期避難となったため、避難先での生活再建が進み、仕事や学校の関係で家族が離散している。今後も高速道路の無料化や、医療費等の支援を継続して欲しい。特に高速料金は大きいので（1回7000円なので）、家族の元へ帰れなくなると思う。（40代）
- 現在の仕事を開業した後に、事業者へ補助金が支援される制度（県外起業300万）が出来たが、既に起業していた場合は遡って支援されない。後出しじゃんけんが得をする様な制度を是正して、被災後の起業（再起者）には助成してほしい。（60代）

[現在の生活について]

- 現在、大熊町に居住しているが、買い物、通院、その他何をするにもいわき市へ通っている。現状の双葉地方の状況では若い世代は戻らないと感じる。商業施設、病院等の充実を図ることが必要だと思う。（10～20代）
- 無償の借上住宅にお世話になっているものの、生活一切については、全くのゼロからの苦しいスタートでした。何とか日常生活を子供達に送らせているものの、故郷への思いは家族全員持っています。ただ、私としては、卒業した学校も風景も全て失い、故郷への思いともう“無い”という絶望感を同時に持っています。せめて、家から眺める空が見たい。朝の空、午前の空、午後の空、夕方、夜、星空、家の明かり。生活をしていくのは大変だと思うものの、帰れる場所が欲しいと思っています。まだ大熊の家のローンも払っている状態で新しい家を持つことが出来るのか、どこに行けば良いのか判断が出来ず、アンケートの度に心苦しく思います。（50代）

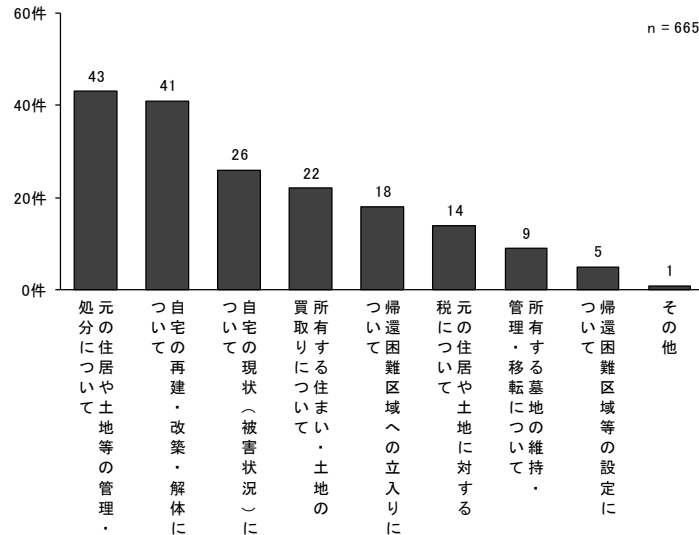
- 中間貯蔵施設予定地内に住んでいたが、契約成立にて現在いわき市に住んでいます。以前の自宅は取り壊しとなり、周辺も更地になり、次々と色々な施設が建ち、「あそこに住んでいた」のも遠い昔のような気がする。しかし、テレビや新聞等で聞きすると、とても懐かしく、胸が締めつけられるようになる。車の運転も出来なくなって、体も自由に動かなくなった今、子ども達の世話にならずには日常生活もままならないが、年に一度でも「故郷」大熊町に行ってみたいと思う。継続的に、バス送迎等で「新生」大熊町への周遊が叶うとありがたい。戻れないと理解しているものの、大熊町とのつながりは切りたくない。(70代以上)

【将来の生活に関する考えについて】

- 現在3歳で、来年春に幼稚園に入園する子供がいます。数年後に大熊に戻り、その子の小学校入学式は大熊でと考えています。そして大熊に戻ってからは、妻も職に就きたいと考えていますので、学童保育の新設を強く求めます。幼稚園の預かり保育や学童保育がないと、子育て世代の帰還は難しいと思います。(30代)
- 現在須賀川市へ避難しているが、家も建て、子供も生まれ、「大熊には戻らない」と決めているが、大熊との繋がりは死ぬまで持ちたいと思っている。まだ、便宜上大熊町へ籍をおき、須賀川市への住所移動はしていない。いずれは須賀川市へ住所を移動するつもりだが、大熊との繋がりが無くなってしまふのではと不安になる。そこで、「帰らない」と決めて住所を避難先へ転居した人達を、「準大熊町民」などとし、ある程度大熊と転居先の両方の行政サービスを受けられる制度を作ってほしい(既にあるのかもしれないが、わからない)。又、仕事も現在は須賀川市でしているが、近いうち、単身で大熊又はその周辺で原発関係か中間貯蔵の仕事をしたいと思っている。災害前は原発関係で働いていたが、当時は仕事が無くなってしまい避難先で働いていたが、収入が災害前の半分以下となっている為である。この面からの避難先で働いて、大幅な収入減になった人の調査などもしてほしいと思っている。又、そういう人たちへ、大熊での仕事、求人などを紹介してくれるとありがたい。(40代)
- 大熊町は住みやすい良い町でした。私が戻らない理由は唯一つです。仕事がないからです。幸いにも震災前から勤めている会社で雇用が確保された為、いわき市に住んでいます。年齢も60才で大熊へ戻る余地がありません。町民が戻るかは雇用確保が一番の問題だと思います。インフラ整備も大切ですが、雇用確保に将来がかかっていると思う。息子が戻って来て一緒に住んでいます、もし大熊町に仕事があれば戻る可能性はあると思います。(60代)

3-7-3 震災発生前の居住地について

＜図表3-7-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地等の管理・処分について】

- 大熊町の「復興」から置き去りにされた土地、家屋の除染の見通しも不明であり、利用価値・不動産としての価値はどうなっていくのか。仮に除染が終わり、家屋を解体して更地にした場合でも、その後どういう使い道があるか。（50代）
- 特定復興再生拠点内の各ゾーンについて、将来的にどうなるのか具体的に示してほしい。下野上地区（産業・交流ゾーン）に所有していた家屋はどうなるか？居住ゾーンではないので、帰町できない理由にもなる。代替地は準備してくれるのか？帰町するつもりもありませんので、家の解体後、国や自治体で買い取ってほしい。（60代）
- 大熊町に戻らないと考えていますが、家屋を解体し更地にした後の土地の方向性が良くわからない為、悩んでいる。（70代以上）

【自宅の再建・改築・解体について】

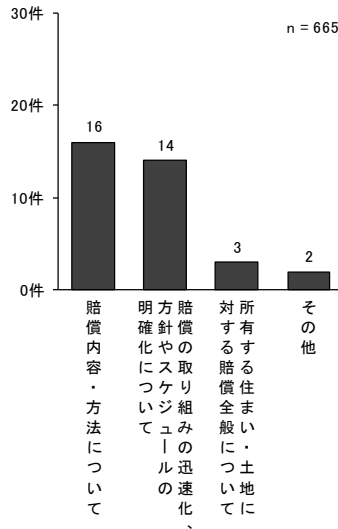
- 現在、宅地の除染か解体かの選択を相談して、解体の手続きを進めています。出来ることならば売却したいと思い、まちづくり公社に登録の手続きを行ないました。しかし築1年半で避難しており、令和4年には築年数も10年以上になってしまうため、住居の借り手もいないだろうと判断し、解体の方向で進めております。更地の方が買い手はつくかもしれないと考えました。どうしても買い手がつかない時には、安価で結構なので、国が町で買い取っていただきたいと切に希望いたします。（40代）
- 住宅の修繕、リフォーム等への補助金などの支援があれば助かります。（50代）
- 帰還困難区域内に家屋、農地があります。解除されるまで生存しているかどうか…。生存しているうちに、解体も含めて整理しておきたいので、解除前でも解体してもらいたい。（70代以上）

[自宅の現状（被害状況）について]

- 大熊にある持ち家も、年数が経つと共に老朽化が進み、家の価値も下がっていく。家の屋根に穴が空き、そこから水もれがあり、車庫の天井も腐ってきている。出来れば早急に対処したい。又、今後家屋は貸家若しくは売家として、希望者がいれば相談したいと考えている。（40代）
- 数ヶ月に一度帰宅していましたが、しかし、獣害（猪）により家中メチャクチャになってしまいました（帰宅する気力もなくなりました）。猪は何とかならないでしょうか。（60代）
- 4年前位より一時帰宅の時、避難時の嫌な思いへタイムスリップするような感じが耐え切れず、帰宅を1年半程していませんでした。今般、墓地の分譲で久しぶりに戻りました。施錠したはずの玄関の鍵が開いており、地震では家の中は特に傷んでいなかったのですが、猪等が入って荒れ放題でした。誰かが侵入し、その後猪などが入ったのだと思います。ドア・窓は壊れていないのに、中が荒されているのでびっくりしました。帰宅困難区域でも不特定多数の方々が入っていると聞いているので、治安に対する配慮もお願いいたします。（60代）

3-7-4 賠償について

<図表3-7-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- ①東京電力への賠償の手続き方法がわからない。②大熊町に住んでも安全なのか、今現在のコミュニティでは確認できない。③生活の保証をしてほしい。④医療費免除の継続。⑤高速道路の無料の継続。⑥税金の免除の継続。⑦仕事、収入に対するの保証と支援。上記①～⑦は、双葉郡民全員に対して安心と思え、安心して生活をできる環境下にして頂きたい。今、私が双葉郡に帰還しても生活ができないと思います。友人、知人が双葉地方に帰還しましたが、現状は元通りの生活ができず、東電の賠償で使わなくてもよい金を、収入もないのに使わざるを得ない状態と聞きます。追加の賠償が必要と思います。宜しくお願い致します。(30代)
- 67才と高齢なので仕事も見つからず、年金も国民年金なので生活費が乏しい。精神的慰謝料も打ち切られ、先行が不安！精神的慰謝料の継続をお願いしたい。(60代)
- 大川原地区住民は、東電の賠償金の格差による減額分を、町の予算から補填した経緯がある。賠償の格差を平等に保つための対応策が、今は復興の格差で不平等な扱いとなっていることに不満を感じる。精神的にも格差を感じる。(60代)

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

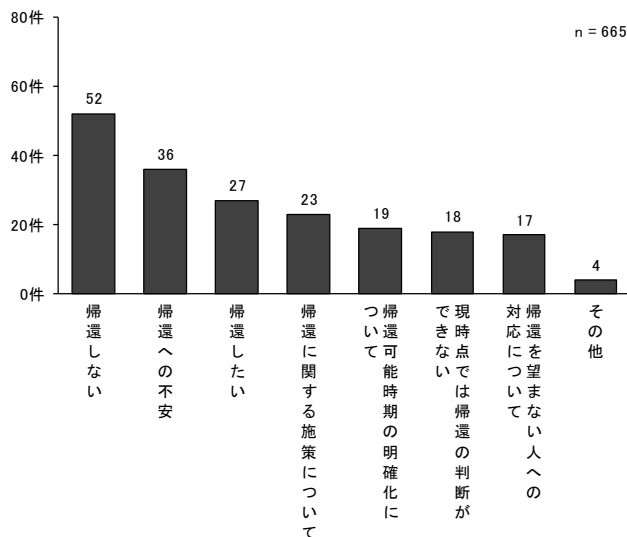
- 賠償（東電）ですが、時効についての町からの情報が無いのは何故か？情報が少ないのは町、県、国、東電が繋がっているのか？東電が継続して変わらない態度。それに対して町は動かないのか。他町村同様、集団ADRしないのか。支援や助成、賠償に頼らない生活をしないといけないことは理解しているが、町は町民に対して、今後どのように考えているのか？明確でなくてもビジョン、イメージが抱けない。(40代)
- 早急に今回の事故に対する慰謝料や金銭的賠償支払ってほしい。この先々死んでからでは何もならないと思います。現に友人知人もどんどん亡くなっています。(60代)
- 生活も困難な状態なので、早く賠償金を頂きたい(頂けるのかわからないので、とても不安な日々を過ごしています)。(70代以上)

[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 大熊町に戻らないと決めていても、避難しているという気持ちでいるという事を忘れないでほしい。私たちはずっと避難生活を送っています。家を建てて新しい生活を送っていても、避難しているのです。私たちの本来の地元（大熊町）ではないのですから。自分たちで決めて家を建てましたが、地元だったら家はあったのに…。世帯主ではなかったために、建築費が賠償対象ではないのはおかしい。世帯主と一緒に生活できなくさせたのは原発の事故なのだから、世帯主の家族でも家を建てた賠償があってもいいのではないか。（30代）
- 平成29年度以降、東京電力の精神的賠償が止まっています（終わった事になっている）。住宅を再建できていないのが現状ですが、ある程度所持金がないと再建は出来ません。原発収束の避難と住宅損失を鑑みても、改めて再賠償（精神的賠償金）を続けていただけるとお願いいたします。（40代）
- 東電の賠償は、今考えると、不動産他納得出来る物ではなかった。同意するの早すぎたと思っている。現場立ち合いでやるべきでした。震災後死亡した人の不動産は、東電賠償では使えないのも納得できません。（60代）

3-7-5 帰還について

<図表3-7-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還しない】

- 今年、大熊の自宅を解体し更地になりました。戻らないと以前から決めていましたが、自宅がなくなり、もう戻る所はなくなったのだと改めて感じました。令和4年の春から、大熊町で学校が再開されるのですが、子供の将来を考えると、今住んでいる所の方が教育環境はとても良いですし、子供のためになると考えております。今後、大熊町とはどのように関わっていけばよいのか、よく分からなくなってきました。大切な故郷なのですが…。複雑な気持ちです。(30代)
- 8年半の年月は長すぎて、とても復興できるとは思いません。自宅に戻れたとしても、とても住める状態ではありません。動物などに荒らされ、帰りたくないです。両親のお墓があっても墓参りにも行けない状況です。だんだん体が老化していくので、おそらくもう行く事はないと思います。(50代)
- 私は80才以上になっています。息子家族と同じ住所ですが、世帯は別になっています。大熊町には戻らないと決めていますが、心の隅には大熊町にいた頃を思い出します。帰町するたび先祖から継いだ土地も荒れ放題で涙が流れる次第です。誰もが帰りたくないと言っても、帰れないのが現状だと思います。私達高齢者は行き先がないから、今住んでいる所で自分なりに生きていきたいと思います。(70代以上)

【帰還への不安】

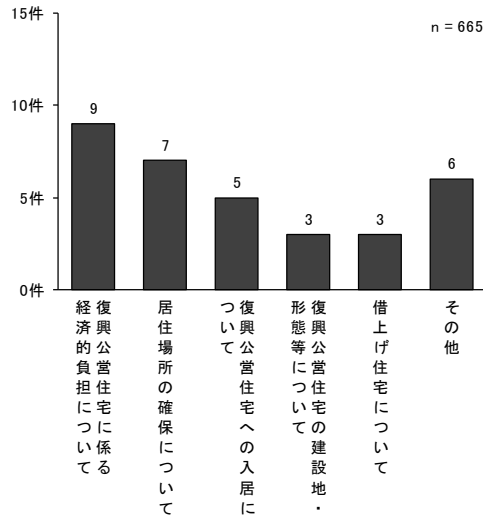
- 放射線の影響など心配な事が多いので、帰る事は難しいです。(30代)
- 飲み水や病院、医療などの不安。放射線、貯蔵施設がある町への不安。なにより息子夫婦（一人息子）がいわき市に家を建てており、孫もいて、息子家族と離れて暮らすのは淋しいですし不安です。親戚、兄弟達もいわきに家を建て暮らしています。(50代)
- 帰りたいが、廃炉が終わった訳ではない。想定外の事態が発生し、又避難となった場合を考えると、子供の反対を押して切って帰る訳なので、その辺が心配。グループホームが出来た場合帰りたいが、その辺の心配がある。大野駅から大川原への便に（乗り物）時々行ってみたいけど、足がない。いわきから大川原、遠いですね。(70代以上)

[帰還したい]

- 戻りたいが、避難先である程度の生活基盤を築いてしまっているため、どうしたらいいのかわからない。夫は被災者じゃないので相談できない。でもいつか戻りたい。(10~20代)
- 元の家に戻って住みたい。でも特定復興再生拠点区域外なので、まだまだ帰れない。家は壊れていなかったもので、早い段階で掃除をすれば住める感じだったが、最近、床はカビ、壁はシミだらけ、クロスは剥がれてきて、修繕費用がかなりかかりそう(水まわりはひどい状態)。区域外はいつ帰れるのかもわからない。どうしたらいいのか計画も立てられない。家はどんどん荒れていき、不安しかない。子供たちの将来、親の介護と、中間の世代は心配や不安だけしかないので、安心して暮らせる町にしてください。(40代)
- いつも大熊町に戻りたい気持ちはあります。でも、ここにいれば子供がそばにいて孫もいます。何かあれば応援もできるし、助けてもらえると思うとここにいるしかないのかと…。もし戻るとなれば私一人で戻ることになるでしょう。パートですが仕事もしています。大熊に戻りたいです。戻りたいです。健康診断や各種手続きに行く時など、慣れない道を1人で行く為不安でいっぱいです。近くでできたらと思ってしまいます。(60代)

3-7-6 避難期間中及び将来の住宅について

＜図表3-7-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅に係る経済的負担について】

- ・復興住宅に入居していますが、家賃支援について他の方と差があり納得できません。収入があり、家賃に変動がありため、家賃支援で全ての家賃が支援されていません。対応して下さい。(30代)
- ・福島県の復興住宅なのに、家族の人数が多いので、働けば働いたほど家賃が高くなるのはおかしいと思う(1ヶ月5万円分も補償外になった)。復興住宅というなら家賃は一律であるべきではないか?(50代)
- ・復興住宅が5年後には家賃が上がると入居時に話されてましたが、国民年金の5万位でどの様に生活していけば良いのか。国、県は住まいの支援をすべきではありませんか。食べる事もままなりません。“帰る家なし”。(60代)

【居住場所の確保について】

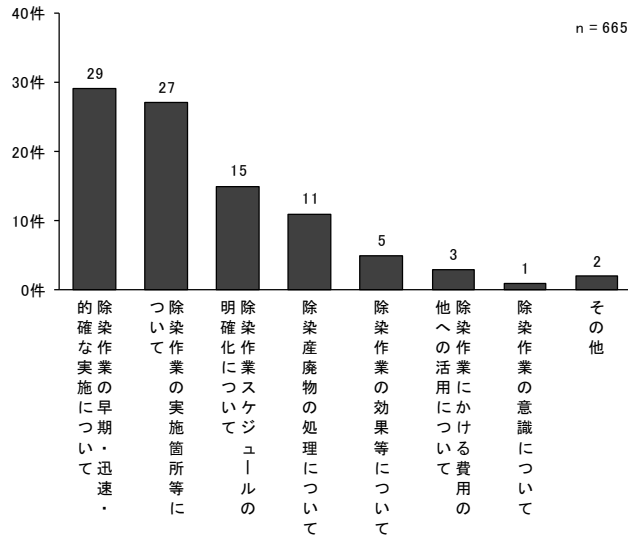
- ・東電からの賠償金も終わってしまい、仮設住宅から県営住宅に移ることができてひと安心というところで。しかし、これからの生活を考えると、仕事を見つけなくては生活していく事ができません。家賃、公共料金等等、隣近所の方は戻ってきていますが、私は対象外だということです。自分の年齢を考えると、今から仕事を見つけるのも大変です。特に資格を持っているわけでもなく、今後の生活が心配です。大熊に戻っても働くところもなく、いわき市に留まることにしました。不安でいっぱいですが、一日も早く就職して生活を安定させたいと思います。もう大熊へ帰るつもりはありません。(50代)
- ・東京の娘の近くにアパートを借りて生活しています。60才以上の1人暮らしには、アパートは貸さないということですが、(娘が近くにいるということで)何とか借りて住んでいます(アパート代は月10万円です)。70才となり、身体も弱くなり、大熊に戻って1人暮らしはとても自信がありません！現在、家賃支援と医療費一部負担金免除があり、大変助かっております。今後もこの制度があれば、娘家族のそばで安心して生活していけるとと思います。大熊町に戻れない人のために、このような制度継続をお願いします。(70代以上)
- ・早く戻りたいと思っても、住宅確保が出来ないので年を取る(72才)ばかり！(70代以上)

〔復興公営住宅への入居について〕

- 運よく私も子供も就労することができました。被災以前と違う業務の仕事にも慣れてきました。やっと落ち着いた生活のために、現在の公営住宅の入居期間の延長を要望致します。(70代以上)
- 一日も早く、医療や買い物や交通や交流のある町作りをしてほしいです。私は第一回目の災害公営住宅に申し込むつもりでしたが、近くに医療関係がないといわれて、申し込みをあきらめました。現在も通院をしているので、早く通院出来る病院を作ってほしいです。そして一日も早く大熊町に戻りたいです。(70代以上)
- 公営住宅(複合)の様な所で、余生を過ごしたいと強く思っています。不安な日々です。しかし、行動出来ず年月が立ってしまいました。相談出来る機関を知りたいと思っています。(70代以上)

3-7-7 除染について

<図表3-7-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[除染作業の早期・迅速・的確な実施について]

- 町内の復興に向けて、まずは徹底した除染作業を進め、早く元の町を取り戻すべきです。その上で、帰町を希望される町民の方々はもとより、新たに定住を希望される住民向けに、町として様々な分野での定住化対策（住宅購入補助金、子育て支援の拡大、学校給食の無償化）について、皆で知恵を出し合って協議すべきであると考えます。私は将来的に帰町しないこと決めましたが、子孫へ語り伝えていけるような、魅力ある町づくりを進めたいと考えています。課題は山積していますが、一歩ずつ町内の復興が進むことを強く望みます。（50代）
- 国には、早く大熊町の除染をお願いしたい。一部分では本当の大熊町にならない。だから戻りたいと思う気がしないのです。復興は建物を建てれば成り立つのか？しかし、昔と同じ様な生活はできない。でも戻りたいと思っている人がいるのも知っている。新しい大熊を創るしかないが、そこには昔のあの時はない。だから新しい大熊が出来る頃には、私は生きていられるのかな？と思う。たまに大熊に行って山を見て、家のあった所を見て、ホッとするしかないと思う。（60代）
- 若い人には夢があるだろうが、高齢者には時間がありません。一刻も早く自宅に許可なく自由に入れる様に、早急な除染をお願いします。大川原地区の復興はめざましいです。他の地区と比較すると、大きな格差を感じます。一時帰宅する度に自宅の状況等を確認すると、更に大きな格差を感じてしまいます。私の母は94歳です（別居中）。顔を見に行くたびに、「大熊町に帰るんだ」と、毎日杖をついて復興住宅の廊下で歩行練習をしています。（70代以上）

[除染作業の実施箇所等について]

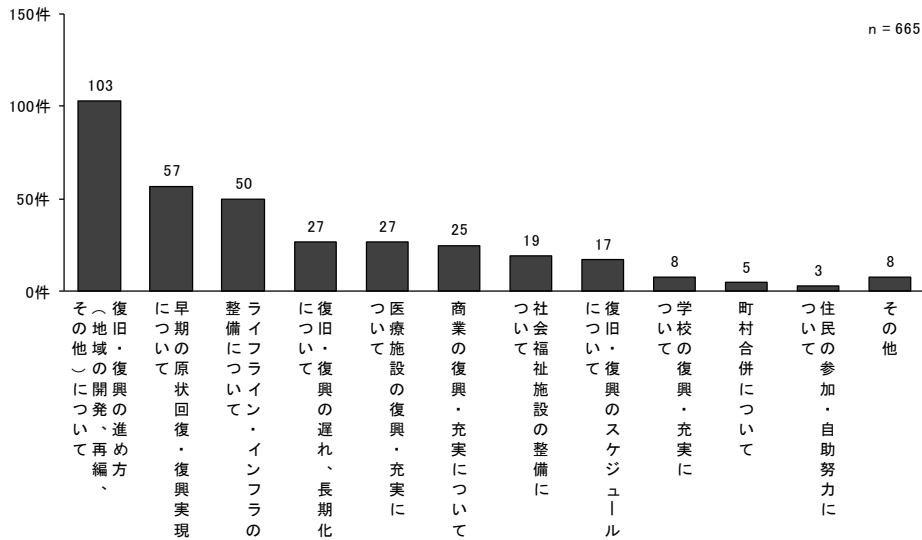
- 現在、町の中核となっている大川原地区は山林が多く、除染されていないところが相当あると思われる。場所によっては線量が高い所もあると聞いているので、山林の除染もある程度の所までお願いしたい。（60代）
- 特定復興再生拠点区域以外の地域の除染を行い、全町が戻れる環境の整備を急ぎ、自然豊かな町作りを目指してほしい。（60代）
- 適当な土地に一戸建てを考えても、宅地以外は除染されていない場所が多く、立ち入りが出来ないため、生活が成り立たない。除染の範囲をもっと広げて欲しい。（70代以上）

〔除染作業スケジュールの明確化について〕

- 白地地区の除染の実施。今後の見通しを立ててほしい。(10～20代)
- 事故発生から約8年半経過した現在でも、除染がいつ開始されるかも分からない状態で、「あなたは大熊町へ帰りますか？」と問われても、答えられるはずが無い。せめて除染時期の見通し位は示して欲しいです。(60代)
- 家屋解体、及び除染はいつ頃になりますか。あと何年もかかると、私の寿命が尽きてしまいます。後の相続が困難になります。生きているうちに家屋解体を望みます。大川原地区、駅前の近くは開発が進んでいますが、熊三区は蚊帳の外。在命のうちをお願いします。(70代以上)

3-7-8 復旧・復興について

<図表3-7-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について]

- 単純に教育・医療・生活環境が整えば、特に問題ないものと個人的には考えています。震災から相当な時間が経っている中、いわき市他多数の場所に生活環境を整えている方々が沢山いらっしゃると思います。そこで天秤にかけた時、今以上の生活を送れないとなると、帰還するには難しいものではと感じています。住み替えに有する支援や、様々な検討を重ねない限り、20代後半～30代後半の方々は戻る気持ちが引ける部分が有ると感じます。60代以上の方はもちろんですが、今後の事を考えると、20代～30代はとても大切な年代だと感じています。今後の町の進め方に目を向けていきたいと思っています。（30代）
- 町の復興再生は大事だと思いますが、本当に帰還して大丈夫ですか？原子力発電所についてもまだ安定とは言えず、今後の廃炉作業にしても不安だらけです。100%安全な環境での作業も保証されていません。除染作業をして頂くとしても、住宅の周りだけではなんの意味もないと思います。山林の中まで作業して頂かないと、長く住むうちには悪影響が及ぼすと思います。インフラにしてもまだまだですし、避難はいつまで続くのか？いつになったら避難が解除されるのか？それ以前に中間貯蔵施設の件にしても、熊川を挟んだだけの所に住む事が本当に安全ですか？（50代）
- 町は、被災後約9年が過ぎ、元々住んでいた住民は既に避難先で生計をたてていて、ほとんど戻らないと思われれます。ですから、新たに大企業を誘致し、農業をはじめとする種々な雇用を通して、新しい人々を住んでもらう。また、魅力的な町づくりを企画して行く必要もあるのでは？（60代）

[早期の原状回復・復興実現について]

- 私は廃炉の仕事をするために、大熊町に転入してきました。今年の春に移転してきましたが、当初は文字通り何も無く、はっきり言って人間が人間らしい暮らしができる町ではありませんでした。しかし、大熊町役場の開設を皮切りに、徐々に町の機能が戻ってきたよう思います。でも、まだまだ復興のスピードが遅く感じます。もっと本気でスピードを上げて復興をしないと、人の気持ちは遠くなり、いずれ忘れられてしまいます。とにかく急いで下さい。（10～20代）
- 一日でも早く大熊町へ戻れるようにお願いします。大好きな大熊町へ戻りたいと思っています。よろしくお願いします。（50代）

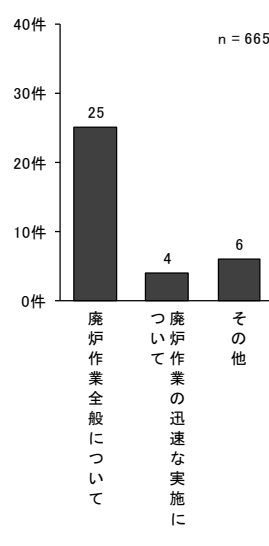
- 大変な事故が起きて、生活が全て変わりました。事故当時は何もわからず、すぐに大熊の家に帰れると思っていました。不安ばかりの毎日は、今も変わりなく続いています。年老いていく中での生活、暮らしは大変です。でも生きていかなければならないのは、苦痛ばかりです。福島のとて大熊の未来はどうなるのか？確認できず、このまま死んでいくということは確かです。この年齢になると、何をするにも大変です。お金も大変です。もっと若ければと思うことばかりです。不安のない静かな毎日がくるといいです。復興は難しく、どの位かかるか分らないと思っています。失って思うことは、忙しい毎日でしたが、のんびり穏やか過ごせた生活は戻ってこないということ。若い人たちが安心、安全で暮らせる、未来のある大熊町になってください。そう願います。(60代)

[ライフライン・インフラの整備について]

- 住環境が整うまで、帰町は難しいです。最低限のインフラだけでは、住みたい、働きたいと思う人は少ないのではないのでしょうか？(30代)
- 県道288号線の整備について、もっと道幅を広げ、森林を整えて欲しいです。田村市から大熊に入る所は一段と木が生い茂り、大熊町がより暗く、行きづらい場所という感じがします。また、携帯の電波が入らない為、何かあった際の非常用の電話などを、等間隔で設置して欲しいです。商業施設の整備も遅れているようで、町民になったばかりですが不安が大きいです。街灯も少なく人も少ない為、夜間(18時以降～)の外出も怖いです。街灯は町内会等で設置するものとは知っていますが、人がいないので国や自治体で設置してほしいです。震災時の町民へのフォローは手厚いですが、新しく町民になった人には、他の自治体よりもメリットが少なすぎです。人を増やしたいのであれば、これから町民になる人にも手厚い制度があればと思います。不便な場所に住んでいるので。(40代)
- ①医療機関の再開や新設を第1に。高齢者のために早くお願い致します。戻りたいと思っけていても、判断が出来ません。②現在は車なしでは生活が出来ないので、公共交通機関の再開を早くお願い致します。(70代以上)

3-7-9 原発の安全性について

<図表3-7-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業全般について]

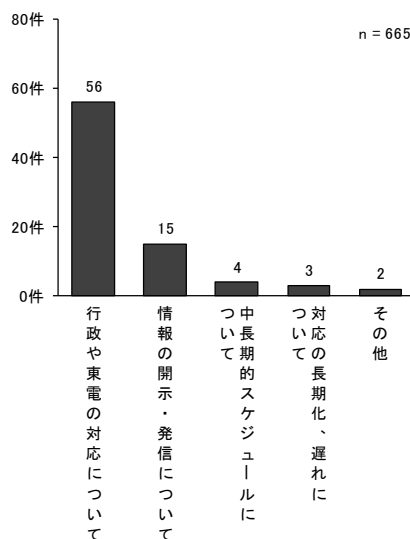
- 以前のようにとはいえないと思うが、子どもたちが安心して故郷に戻ることができるようになってほしい。原発が廃炉となり、完全に安全になるその時まで、しっかりと歩みを進めてほしい。中間貯蔵施設が本当に「中間」なのか、未だ信用できない。絶対に最終処分地にだけはしないでほしい。家族で安心して訪れることができる大熊町になってほしい。(40代)
- 中間貯蔵の汚染土壌や廃炉解体物の、町外への完全持ち出しを実施して欲しい。原発誘致前の元の原野に戻して欲しい。戻る町民の数より、今後は廃炉従事者・関係社員の転入が上回ることが考えられる。電力会社や廃炉会社の有権者の住民が増えることで、汚染物質の最終処分場になるのではないかと心配する。他町村(市)との合併も考えて欲しい。(60代)
- 自宅は中間貯蔵地で20数年後でないと思えないが、その頃は100才を超えるので戻らないと決めた。しかし、故郷の大熊町が復興し、美しい姿を取り戻すことを願っている。その為には自然環境、生活環境が整い、人が戻ることが大切。一番気になるのは中間貯蔵の廃棄物が、約束した30年後に除去されるのか。原子力発電所の原子炉を中心とした核物質や汚染廃棄物が、完全に町から無くせるかで、これらが残されたままでは町の復興は無いと思うので、町、県、国が一体でこれらの物質の完全除去に取り組んで欲しい。(70代以上)

[廃炉作業の迅速な実施について]

- 大熊町が復興して行く事はとても大切な事だとは思いますが、原発がなくなる限りは、マイナスのイメージが残ったままで、良い町づくりが出来るのか疑問です。(50代)
- 今後の廃炉作業等が円滑に進められることを希望します。除染作業も順調に進められることを希望します。(60代)
- 死亡する前に、原発を早く大きな公園に整備し、そこに行って海を見てみたい。(70代以上)

3-7-10 原発事故に対する対応について

＜図表3-7-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 町として今後どうしたいのかが分からない。現状では持ち家を所有している人が大半だが、避難先で持ち家を持っている町民に対して対応が知りたい。避難前は小学生、中学生の子供は成人になり、今後の対応で若者の未来を左右すると思う。大熊町は再建するにあたり賠償はあるが、若者の未来も考えるべきではないか。今の大熊町は、地図に大熊町の名を残すことを考えているとしか思えない。人の気持ちをつかむ行政になってほしいと思う。行政は行っているつもりでも、なにも変わってはいない。無駄な8年を過ごしてはいないか？（40代）
- 国の原子力発電所災害に対する私たちへの補償は、他の自然災害に比べかなり手厚く、感謝申し上げます。ただ、国策である原子力推進は必要なものだったにしろ、安全対策を疎かにした罪は大きいです。それを全て東京電力の責任とし、国の責任を明確にしていない事が、今の「もやもや」した現況のように思います。まず、間違いを間違いとすることが復興のスタートだと感じます。（50代）
- 先日、原子力発電所事故の裁判において、東電の旧経営陣3名に無罪の判決が下りました。国策により進められてきた原子力発電所が、あれだけの事故を起こしたにも関わらず、国も東電も誰も責任をとっていないことに激しい憤りを感じます。ましてや、責任を取ることのできない東電が、再稼働を目指す日本原電の東海第二発電所の安全対策費用に、2000億円を支援することなど考えられないことだ。そのお金は賠償に当てるべきだ。（60代）

【情報の開示・発信について】

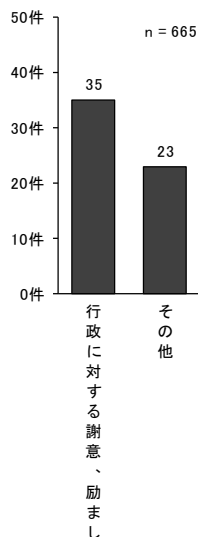
- 原発事故によって失われた地域の非惨な現実を伝えて、全国の原発を安全な内に廃炉にするよう伝える場として活用する。事故後、父も母も避難生活によるストレスが原因で亡くなった。原発事故さえなかったら、故郷でまだまだ元気で幸せに暮らしていたと思うと、残念で悔しい。（60代）
- 大熊町が真の復興に向けて動き出す為には、福島第一原発内にある汚染水（タンク）の処理をどうするかである。今のままではタンク数が増えるだけで、そのタンクを今度はどこに設置してゆくのかわからないという新たな疑問が生まれることが想像できる。町は国に対して、「汚染水処理をどうするのか？国の問題として真剣に考える」ように発言して欲しい。そうでないと「第2のチェルノブイリ」として同じ様な経緯を将来歩むことになり、誰も大熊町には近づかなくなると思う。（60代）
- 事故後、様々な説明会などが行なわれているようですが、説明会で出た質問や疑問に対する回答や説明などを、プリントするなどして届けていただきたい。わからないことが多すぎる。（70代以上）

[中長期的スケジュールについて]

- 中間貯蔵施設（30年）の期間を明確にしてほしい（例：2050年には物の移動を終了するなど）。最終処分場所を10年以内に決める。福島県以外に必ずする。（40代）
- 今回の事故について、町民が安心、安全に震災前の様な生活を可能にすべく、国が全面に出て、早急に将来の方向性を明示すべきと思います。（60代）
- 廃炉になるまでの経過年数、放射線の種類一つ一つが具体的に何年かかるかを公表してほしい。地球を破壊させる原因にもなりえるのに、問題ないかのように見ぬふりをしている政府。チェルノブイリに行く等して、本当のことを国民に伝えてほしい。帰る帰らないの話はその後です。トンパックの山積み。台風によっていくつか破れ、川へ流出しているのに問題ない（空気中）と言っていました。川の生態～海へ流出する危機感はないのかと耳を疑った。担当大臣が次々変わるので、福島県議員、地元の人達がどんどん上に立つ者を導いてほしい。東電に責任を転嫁させている政府は、おかしい、ずるいと声をあげて下さい。（60代）

3-7-11 その他

<図表3-7-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 町の復興に携わる全ての方の努力に感謝申し上げます。着実に復興が進んでいることは、広報や報道で知ることができています。引き続き、継続して頂けたらと思います。渡辺町長におかれましては、事故後先頭に立って邁進頂き感謝します。町長なしではここまで進まなかったと思います。今はご自愛頂き、今後の大熊町を見守って頂けたらと思います。(30代)
- 毎年年末に送って頂いているお米をはじめとするふるさと便の小包便は、とても気持ちが温かくなる様な気がして、毎年うれしく思います(親から子への宅急便的な)。毎年内容も考えて頂いたり、色々手配して頂いたり苦勞はありますが、大熊町は「皆のこと忘れてないよ」みたいな感じで、本当に毎年ありがとうございます。(50代)
- 大熊町の復興に努力されている関係者の方々に感謝申し上げます。一気に以前の状態に戻ることはできませんが、少しでも前進あれば良いと思います。又、企業の誘致、農地を活かした特産物への取組をし、雇用を生み出すことが必要と思います。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

大熊町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、大熊町に住民登録されていた世帯（避難後の転出者を含む）および令和元年9月20日時点で大熊町に住民登録のある世帯が対象です。

ご回答は、世帯の代表者の方をお願いいたします。

現在、世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票が送付されたお住まいの代表者の方に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

- 調査票は記名式でお願いしております。恐れ入りますが、最終ページに「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いします。

● 個人情報について

- 調査票に記載いただいた個人情報は、大熊町、福島県及び復興庁において適切に管理いたします。
- また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、11月11日（月）までに、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-990-917

[設置期間：10月29日（火）～11月11日（月）平日10時～17時]
土・日・祝を除く

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 生活拠点課
電話 024-521-8617

大熊町

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717番地
大熊町役場 企画調整課 企画復興係
電話 0120-26-3844（代）

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 性別を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【すべての方にうかがいます。】

問 2 あなたの現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 3 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態)(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 8. 学生 ⇒ <u>問 4 (2 ページ) へ</u> |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 9. 無職(職を探していない)
⇒ <u>問 4 (2 ページ) へ</u> |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している)
⇒ <u>問 4 (2 ページ) へ</u> |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 11. その他〔 具体的に: _____ 〕 |
| 5. 団体職員 | |
| 6. 公務員 | |
| 7. パート・アルバイト | |

【仕事に就いている方((1)で「1」から「7」までと、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種(○は1つ)

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. 農業(畜産業を含む) | 8. 卸・小売り・飲食、サービス業 |
| 2. 林業 | 9. 金融・保険業 |
| 3. 漁業 | 10. 医療・福祉 |
| 4. 建設業 | 11. 教育 |
| 5. 製造業 | 12. 公務 |
| 6. 電気・ガス・水道業 | 13. その他〔 具体的に: _____ 〕 |
| 7. 運輸業 | |

東日本大震災発生当時の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時、あなたは大熊町にお住まいでしたか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--|
| 1. 大熊町に住んでいた | 2. 大熊町には住んでいなかった ⇒ 問 8 (3 ページ) へ |
|--------------|--|

【問 4 で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】

問 5-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。(○は1つ)

※別途同封しております「大熊町 特定復興再生拠点区域復興再生計画の概要」をご覧ください。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 避難指示が解除された地域(中屋敷・大川原地区) | 4. 「1」「2」「3」以外の区域 |
| 2. 特定復興再生拠点区域 | 5. わからない |
| 3. 中間貯蔵施設予定地の区域 | |

【問 4 で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】

問 5-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|---------|-------------------------------|
| 1. 中屋敷 | 7. 大野1 | 13. 熊3 | 19. 夫沢1 |
| 2. 野上1 | 8. 大野2 | 14. 町 | 20. 夫沢2 |
| 3. 野上2 | 9. 大川原1 | 15. 熊川 | 21. 夫沢3 |
| 4. 下野上1 | 10. 大川原2 | 16. 野馬形 | 22. その他 (わからない場合は住所を記載してください) |
| 5. 下野上2 | 11. 熊1 | 17. 小入野 | () |
| 6. 下野上3 | 12. 熊2 | 18. 大和久 | |

【問 4 で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 (具体的に:) |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | () |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【問 4 で「1. 大熊町に住んでいた」と回答した方にうかがいます。】

問 7 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15歳以上 18歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18歳以上 65歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在お住まいの自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大熊町 2. いわき市 3. 相馬市 4. 南相馬市 5. 広野町 6. 檜葉町 7. 富岡町 8. 川内村 9. 浪江町 10. 葛尾村 11. 新地町 12. 飯舘村 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 福島市 14. 郡山市 15. 白河市 16. 須賀川市 17. 二本松市 18. 田村市 19. 伊達市 20. 本宮市 21. 桑折町 22. 川俣町 23. 大玉村 24. 西郷村 25. 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 26. 会津若松市 27. 喜多方市 28. 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 28 以外) 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 29. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin-left: 100px;"></div> (市・町・村)
		<p>【 福島県外 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 福島県外 →具体的にご記入ください <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin-left: 100px;"></div> (都・道・府・県)
		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin-left: 100px;"></div> (市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) 2. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償) 3. 大熊町営の災害公営住宅(大熊町内・有償) 4. 福島県営(本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む)の復興公営住宅(大熊町外・有償) 5. その他の公営住宅(「3」と「4」は除く。有償) 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 民間賃貸住宅(有償) 7. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) 9. 親戚・知人宅 10. その他 (具体的に
--	---

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

将来に関するご意向についてお聞かせください。

町では平成31年4月に一部地域の避難指示が解除され、復興拠点として整備していた大川原地区に役場を開庁しました。また6月より災害公営住宅への入居が開始され、生活関連施設の整備も進めています。

一方、平成29年11月に認定されました帰還困難区域内における「特定復興再生拠点区域復興再生計画」では、JR大野駅周辺や下野上地区を中心に「特定復興再生拠点区域」（約860ha）と位置づけ、令和4年春頃までに除染を行い避難指示解除による居住開始を目指すことにしました。

問11から問14-7までは、同封しております「大熊町 特定復興再生拠点区域復興再生計画の概要」をご覧くださいながらお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問11 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. すでに大熊町で生活している | ⇒ <u>問12へ</u> |
| 2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) | ⇒ <u>問13-1(5ページ)へ</u> |
| 3. まだ判断がつかない | ⇒ <u>問14-1(6ページ)へ</u> |
| 4. 戻らないと決めている | ⇒ <u>問16-1(8ページ)へ</u> |

問12は、問11で「1.すでに大熊町で生活している」と回答した方にうかがいます。

問12 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|---------------------------------------|
| 1. 医療機関(診療科)の充実 | 10. 鉄道などの公共交通機関の再開・充実 |
| 2. 介護・福祉施設の充実 | 11. 町内コミュニティ活動(行政区などの活動も含む)・生涯学習環境の機会 |
| 3. 保育・教育環境の充実 | 12. 公営住宅・居住環境の整備 |
| 4. 見守り活動の継続 | 13. 継続的な健康管理など、放射線に対する不安解消への取り組み |
| 5. 雇用確保の支援 | 14. その他 (具体的に:) |
| 6. 防犯体制の強化 | |
| 7. 有害鳥獣対策の強化 | |
| 8. フォローアップ除染(再除染)の実施 | |
| 9. 商業施設の再開・充実 | |

問18 (10ページ)へ

問 13-1 からは、問 11 で
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 13-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。(○は1つ)

1. 1年以内
2. 3年以内
3. 特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されてから
4. 特定復興再生拠点区域外にある自宅に帰れるまで待ちたい
5. しばらく様子を見たい
6. その他(具体的に: _____)

問 13-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------|---|-------------------------|
| 1. 家族全員での帰町を考えている | ⇒ | <u>問 13-3 へ</u> |
| 2. 家族一部での帰町を考えている | ⇒ | <u>問 13-3 へ</u> |
| 3. 現在検討しているところ | ⇒ | <u>問 14-1 (6 ページ) へ</u> |
| 4. まだわからない | ⇒ | <u>問 14-1 (6 ページ) へ</u> |

問 13-3 は、問 13-2 で「1. 家族全員での帰町を考えている」
「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。

問 13-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 18 歳未満	人	ウ) 65 歳以上の方	人
イ) 18 歳以上 65 歳未満	人		

問 14-1 (6 ページ) へ

問 14-1 からは、問 11 (4 ページ) で「2. 戻りたいと考えている (将来的な希望も含む)」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 14-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考える施設を教えてください。(○はいくつでも)
※交流施設、商業施設、宿泊施設は町で整備を予定していますので、それ以外の施設を教えてください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 医療施設 | 5. 運動施設 |
| 2. 介護・福祉施設 | 6. その他 (具体的に: _____) |
| 3. 保育・教育施設 | |
| 4. 金融機関・ATM | |

問 14-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 住宅の修繕・建て替えの相談サービス | 7. 食事宅配サービス |
| 2. 雇用確保・就業支援の相談サービス | 8. 公共交通サービス |
| 3. 安否確認・見守りサービス | 9. 通信環境改善の相談サービス |
| 4. 健康相談・生活相談サービス | 10. 教育環境の充実・サービス |
| 5. 健康増進・介護予防サービス | 11. その他 (具体的に: _____) |
| 6. 移動販売サービス | |

問 14-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | 8. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい | 9. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 10. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | 11. その他 (具体的に: _____) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 6. 公営住宅(一戸建) | |
| 7. 公営住宅(集合住宅) | 12. 現時点では判断できない |

問 14-4 大川原地区内の「復興拠点」やJR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1. 大川原地区内の復興拠点に居住したい | ⇒ 問 18 (10 ページ) へ |
| 2. 特定復興再生拠点区域に居住したい | ⇒ 問 14-5 (7 ページ) へ |
| 3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない | ⇒ 問 14-6 (7 ページ) へ |
| 4. 判断ができない | ⇒ 問 14-7 (7 ページ) へ |

問 14-5 は、問 14-4 (6 ページ) で
「2. 特定復興再生拠点区域に居住したい」と回答した方にかがいます。

問 14-5 JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に、町により住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 公営住宅(一戸建) | 5. その他 | 【具体的に:

】 |
| 2. 公営住宅(集合住宅) | | |
| 3. 分譲地を購し、自宅を建築 | | |
| 4. 特定復興再生拠点区域にある自宅 | 6. 現時点では判断がつかない | |

問 11 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 18(10 ページ)へ
問 11 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 15(8 ページ)へ

問 14-6 は、問 14-4 (6 ページ) で「3. 大川原地区内の復興拠点や
特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方にかがいます。

問 14-6 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に居住しない理由はどのようなことですか。(○は1つ)

- | | |
|--|---|
| 1. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから |) |
| 2. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購し生活したいから | |
| 3. その他(具体的に: | |

問 11 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 18(10 ページ)へ
問 11 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 15(8 ページ)へ

問 14-7 は、問 14-4 (6 ページ) で「4. 判断ができない」と回答した方にかがいます。

問 14-7 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| 1. 周辺環境がわからないから |) |
| 2. 道路、鉄道、病院などの社会基盤(インフラ)がどの程度整備されるかわからないから | |
| 3. 生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから | |
| 4. 生活の拠点にできるかわからないから | |
| 5. どのような人が住むかわからなく不安だから | |
| 6. 幼稚園、小学校、中学校等の教育機関がどの程度整備されるかわからないから | |
| 7. 自身の生活の見通しがたっていないから | |
| 8. その他(具体的に: | |

問 11 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 18(10 ページ)へ
問 11 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 15(8 ページ)へ

問 15 は、問 11 (4 ページ) で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 15 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

1. 帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. 幼稚園、保育所、小学校、中学校に関する情報
12. その他(具体的に:)

 問 16-1 へ

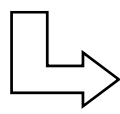
問 16-1 からは、問 11 (4 ページ) で「3. まだ判断がつかない」
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

問 16-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. そう思う | 2. わからない | 3. そう思わない |
|---------|----------|-----------|

問 16-2 大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 1か月に1回程度 | 4. 1年に1回程度 |
| 2. 2~3か月に1回程度 | 5. 2~3年に1回程度 |
| 3. 半年に1回程度 | 6. 訪れるつもりはない |

 問 11 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 18(10 ページ)へ
問 11 で「4. 戻らないと決めている」を選んだ方は、問 17-1(9 ページ)へ

問 17-1 からは、問 11 (4 ページ) で
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

問 17-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○は3つまで)

【帰町的前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
4. 中間貯蔵施設が整備されるから
5. 原子力発電所の廃炉作業が行われているから

【町内の復旧状況に関わるもの】

6. 特定復興再生拠点区域外であり解除の見通しが立っていないから
7. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
8. 大熊町での事業の再開が難しいから
9. 営農などができそうにないから
10. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
11. 大熊町外への移動交通が不便だから
12. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
13. 医療環境に不安があるから
14. 介護・福祉サービスに不安があるから
15. 教育環境に不安があるから
16. 生活に必要な商業施設などが不足しているから

【今後の生活に関わるもの】

17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 子供の遊び場(屋内・屋外)が無いから
19. 他の住民も戻りそうにないから
20. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
21. 帰町までに時間がかかるから
22. 避難先で仕事を見つけているから
23. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
24. 避難先の方が生活利便性が高いから
25. すでに生活基盤ができているから
26. その他

（具体的に：

問 17-2 戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 役場からの継続的な情報提供
4. イベントや交流の場の開催

5. 一時帰宅支援

6. その他

（具体的に：

問 17-3 戻らない場合に、今後の居住を検討している(既に居住している場合を含む)自治体はどの自治体になるかを教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 富岡町 7. 川内村 8. 浪江町 9. 葛尾村 10. 新地町 11. 飯館村 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 福島市 13. 郡山市 14. 白河市 15. 須賀川市 16. 二本松市 17. 田村市 18. 伊達市 19. 本宮市 20. 桑折町 21. 川俣町 22. 大玉村 23. 西郷村 24. 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 会津若松市 26. 喜多方市 27. 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 27 以外) 】</p> <p>28. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>29. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(都・道・府・県)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村・区)</p>
--	---	---

問 17-4 戻らない場合に、今後のお住まいとして希望する(既に居住している場合を含む)住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなど) 3. 民間賃貸住宅(一戸建) 4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) 5. 公営住宅(一戸建) 6. 公営住宅(アパート・マンションなど) 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 給与住宅(社宅など) 8. 家族のどなたかのお住まい 9. 親戚・知人宅 10. その他
--	--

具体的に:

【すべての方にうかがいます。】

問 18 町では町内への企業立地を進めております。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 町内で就労したい 2. 条件が合えば町内で就労したい 3. 町内での就労希望者はいない
--

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】

問 19-1 町では令和4年春に町内の大川原地区での学校の再開を目指しています。その際お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 通園・通学をさせたい 2. 通園・通学はさせたくない 3. わからない 	<p>⇒ 問 19-2 (11 ページ) へ</p> <p>⇒ 問 20-1 (11 ページ) へ</p> <p>⇒ 問 20-1 (11 ページ) へ</p>
--	--

問 19-2 は、問 19-1 (10 ページ) で
「1. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。

問 19-2 お子様・お孫様に通園・通学をさせたい校種について教えてください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 保育所 | 2. 幼稚園 | 3. 小学校 | 4. 中学校 |
|--------|--------|--------|--------|

【すべての方にうかがいます。】

問 20-1 町内に保有している家屋・宅地の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)
(複数所有している場合は自宅についてお答えください)

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. 世帯で保有している家屋・宅地はない | 6. 家屋を解体して更地にしたい |
| 2. 建物・宅地除染後、自ら使いたい | 7. 家屋・宅地除染後に判断したい |
| 3. 建物・宅地除染後、親戚・親族・友人に使ってもらいたい | 8. 全て中間貯蔵施設予定地内に保有している |
| 4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている | 9. その他 (具体的に:) |
| 5. 家屋を解体して建替えたい | |

問 20-2 は、問 20-1 で
「4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。

問 20-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。(○は1つ)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1. 登録している ⇒ 問 21-1(12 ページ) へ | 2. 登録していない ⇒ 問 20-3 へ |
|--|---------------------------------------|

◆不動産利活用事業とは◆

町がおおくままちづくり公社に委託している事業で、不動産の売買や賃貸を希望する町民の土地や建物の情報を収集し、将来の利活用につなげることを目的としています。

問い合わせ先 : 一般社団法人 おおくままちづくり公社
電話番号 : 0246-85-5237
受付 : 平日 9時~17時

問 20-3 は、問 20-2 で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。

問 20-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 不動産利活用事業を知らなかったから | |
| 2. 所有している家屋・宅地が荒廃していて登録できるとは思わなかったから | |
| 3. おおくままちづくり公社以外の不動産業者に依頼を考えているから | |
| 4. その他(具体的に:) |) |

復興公営住宅についておうかがいします。

◆復興公営住宅とは◆

将来の帰還に向け、仮設住宅等から安定的な居住・生活環境に移っていただくためなど、原子力災害により避難の継続を余儀なくされている方々の居住の安定を確保するために、福島県が主体となり整備している公営住宅です。

※大熊町が整備した町内の災害公営住宅とは異なりますのでご注意ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 21-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

1. すでに入居している
2. 入居の申込み中である
3. 今後、入居の申込みをしたい
4. 入居を希望しない
5. 判断できない

（判断できない理由を教えてください）

問 21-2 は、問 21-1 で

「3. 今後、入居の申込みをしたい」と回答した方にうかがいます。

問 21-2 入居を希望する市町村について教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------|---------------------|
| 1. 福島市 | 7. 田村市 |
| 2. 会津若松市 | 8. 南相馬市 |
| 3. 郡山市 | 9. 本宮市 |
| 4. いわき市 | 10. その他 |
| 5. 白河市 | （ご希望の市町村名をご記入ください：） |
| 6. 二本松市 | |

※この質問への回答により、入居申し込み等に影響があるものではありません

【すべての方にうかがいます。】

問 22 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ(14 ページ)の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。

	氏名	性別	年齢	あなたとの 続柄 ＜表1＞	大熊町への 帰町・転入 の意向 ＜表2＞	今後の 住まいの 意向 ＜表3＞	町に 求める 支援等 ＜表4＞
	氏名を記入 してください	番号を○で 囲んで ください	現在の 年齢を 記入して ください	14 ページの 表1から ひとつ 選んで ください	14 ページの 表2から ひとつ 選んで ください	14 ページの 表3から ひとつ 選んで ください	14 ページの 表4から ひとつ 選んで ください
記入例	大熊 花子	1. 男 2. 女	30 歳	[2]	[1]	[7]	[7]
1 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
2 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
3 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
4 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
5 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
6 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
7 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
8 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
9 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
10 人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]

【表1：あなたとの続柄】

1. 配偶者	5. 父・母
2. 子	6. 祖父・祖母
3. 孫	7. その他（具体的に：
4. 兄弟・姉妹	）

【表2：大熊町への帰町・転入の意向】

1. すでに戻っている・転入した
2. 戻りたい・転入したいと考えている（将来的な希望も含む）
3. まだ判断がつかない
4. 戻らない・転入しないと決めている

表3と表4は、表2で「1. すでに戻っている・転入した」「2. 戻りたい・転入したいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答したご家族の方のみご回答ください。

表2で「4. 戻らない・転入しないと決めている」と回答したご家族の方は、表3と表4への回答は不要です。

【表3：今後の住まいの意向】

1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)
2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい
3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい
4. 民間賃貸住宅(一戸建)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
6. 公営住宅(一戸建)
7. 公営住宅(集合住宅)
8. 給与住宅(社宅など)
9. 家族のどなたかのお住まい・実家
10. 親戚・知人宅
11. その他(具体的に：
12. 現時点では判断できない

【表4：町に求める支援等】

1. 被ばく低減対策	7. 公共交通機関の再開
2. 住宅の修繕や建て替えへの支援	8. 雇用確保・就業支援
3. 商業施設の再開や新設	9. 高齢者世帯に対する生活支援
4. 医療機関の再開や新設	10. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善
5. 介護福祉施設の再開や新設	11. その他（具体的に：
6. 学校や教育施設の再開や新設	）

国や福島県、大熊町へのご意見などについてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 23 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

今回の調査では帰町や今後の生活環境に関する住民のみなさんのご意見をうかがうことを目的に実施するものです。

本調査でいただいたご回答については、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料として活用させていただきます。

なお、ご回答いただいた現在の状況や今後のご意向、大熊町への帰町をご希望される場合のご希望の状況などについて、改めてお聞きする場合がありますので、あなたの氏名と現在のご住所、ご連絡先をご記入いただけますと幸いです。

F1 あなたの氏名

F2 現在あなたがお住まいの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
11月11日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**大熊町 住民意向調査
報告書**

令和2年3月

復興庁 福島県 大熊町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

